

事 業 報 告

令和2年度 法人本部 事業報告

本年度は、中期基本計画（平成30～令和2年度）の最終年として法人本部、高齢、障害、児童部門とも、新型コロナウイルスが猛威を振るい、数度にわたる緊急事態宣言の発出および延長など、行事、事業の縮小、中止を余儀なくされましたが、計画に沿って事業を進めてまいりました。

検温、手指消毒、マスク着用、手洗い、換気、三密回避、会食等の自粛も徹底して行い、感染防止を、職員一丸となって取り組んできた結果、クラスター等をおこすことなく、事業を継続実施することができました。

本年度の特徴的事業として、令和2年12月に武蔵野市桜堤ケアハウスにおいて武蔵野市放課後等デイサービスパレットを開設、さらにはグループホームかしの木北館・南館を令和3年3月にオープンしました。それに伴い、長年サービスを行っていたグループホームやはたハウスと重度身体障害者グループホームRENGAは閉館となりました。

また、本年度も人材育成に力を注ぎ、WEBによる職員研修や、昇任試験や人事評価により、意欲ある職員の登用を行うとともに、次の3年間の中期基本計画の策定も行いました。

法人は、今後も安全・安心のサービスを提供することを心がけ、利用者様やご家族の満足度が向上するよう更なる質の向上に努めます。そして新規事業が良好に運営していけるよう、職員一丸となって「地域社会に役立つ」の理念のままに、更なるサービスの発展に取り組んでまいります。

新型コロナウイルス感染症対策は一切油断することなく、今後ワクチン接種等の対応も準備周到に行い、職員、利用者ともに罹患者を出さないように細心の注意をもって事業継続できるよう、この危機的状況乗り越えてまいります。

1 法人全事業でサービスを提供した人、件数 (延数/年間)

障害者関係	施設サービス	108,580名	(昨年度 120,642名)
	支援・相談等	28,105件	(昨年度 29,133件)
高齢者関係	施設サービス	29,357名	(昨年度 35,347名)
	支援・相談等	10,535件	(昨年度 9,720件)
合 計	施設サービス	137,937名	(昨年度 155,989名)
	支援・相談等	38,640件	(昨年度 38,853件)

2 理事等役員及び職員数及び参加ボランティア数 (令和3年3月31日現在)

理 事	7名	正規職員	183名 (昨年度比9名増)
評 議 員	9名	嘱託職員	41名 (昨年度比3名減)
監 事	2名	臨時職員	123名 (昨年度比8名減)
第三者委員	3名	職員合計	347名 (昨年度比2名減)
ボランティア数	延 152名		

3 苦情解決 苦情受付件数 34件 (障害者施設32件 高齢者施設2件)

4 職員採用、異動等

法人職員 採用 21名 (一般支援15名 看護師3名 理学療法士1名 公認心理士1名 事務員1名)
 退職 14名 (一般支援9名 看護師5名) (内、定年退職者5名)
 (2) 職員人事異動 31名 (昇任10名 配置転換等21名)

5 資格取得者数 (令和3年3月31日現在 延数)

社会福祉士	76名	介護福祉士	67名	介護支援専門員	37名
精神保健福祉士	13名	看護師・保健師	23名	保育士	25名

理学療法士	3名	作業療法士	3名	言語聴覚士	3名
心理士	12名	管理栄養士・栄養士	4名	初任者研修	27名
サービス管理責任者	59名	相談支援従事者	25名	強度行動障害養成	75名

※本年度 当法人資格取得支援制度による合格者3名

6 理事会の開催

- (1) 第1回理事会 令和2年6月29日(月) 書面開催(出席者 6名/6名中)
- ① 議案第1号 令和元年度事業報告
 - ② 議案第2号 令和元年度資金収支計算書・事業活動計算書・貸借対照表について
 - ③ 議案第3号 令和元年度決算附属明細書について
 - ④ 議案第4号 財産目録について
 - ⑤ 議案第5号 社会福祉充実計画の承認について
 - ⑥ その他 監査報告
- (2) 第2回理事会 令和2年7月15日(水) 書面開催(出席者 6名/6名中)
- ① 議案第6号 評議員会の召集手続きの省略について
- (3) 第3回理事会 令和2年7月22日(水) 書面開催(出席者 6名/6名中)
- ① 議案第7号 特別養護老人ホームゆとりえ大規模修繕にかかる入札参加条件について
 - ② 議案第8号 特別養護老人ホームゆとりえ大規模修繕にかかる予定価格及び最低制限価格について
- (4) 第4回理事会 令和2年8月25日(火) 書面開催(出席者 6名/6名中)
- ① 議案第9号 特別養護老人ホームゆとりえ大規模修繕にかかる入札参加条件について
 - ② 議案第10号 特別養護老人ホームゆとりえ大規模修繕にかかる予定価格及び最低制限価格について
- (5) 第5回理事会 令和2年10月29日(木) WEB開催(出席者 6名/6名中)
- ① 議案第11号 特別養護老人ホームゆとりえ大規模修繕の入札結果等について
 - ② 報告事項 理事長の職務執行状況について
 - ③ その他
- (6) 第6回理事会 令和3年1月15日(金) 書面開催(出席者 6名/6名中)
- ① 議案第12号 (仮称)新せきまえハウスBの家電機器類の納入にかかる入札参加予定業者(見積もり依頼業者)の選定について
- (7) 第7回理事会 令和3年3月19日(金) (出席者 6名/6名中)
- ① 議案第13号 (仮称)新せきまえハウスBの家電機器類の納入にかかる入札参加予定業者(見積もり依頼業者)の経過について
 - ② 議案第14号 特別養護老人ホームゆとりえ大規模修繕にかかる契約変更について
 - ③ 議案第15号 令和2年度収支補正予算(第1回)
 - ④ 議案第16号 第五期中期基本計画(令和3年度~令和5年度)について
 - ⑤ 議案第17号 令和3年度事業計画
 - ⑥ 議案第18号 令和3年度収支予算
 - ⑦ 議案第19号 収益事業の開始について
 - ⑧ 議案第20号 組織等規程の一部を改正する規程について
 - ⑨ 議案第21号 施設長人事の同意について
 - ⑩ 議案第22号 評議員会の召集手続きの省略について
 - ⑪ 報告事項 理事長の職務執行状況について
- (8) 第8回理事会 令和3年3月31日(水) (出席者 6名/6名中)
- ① 議案第23号 事務局長等の選任について

7 評議員会の開催

- (1) 第1回評議員会 令和2年7月15日(水) 書面開催(出席者 9名/9名中)
- ① 議案第1号 令和元年度資金収支計算書・事業活動計算書・貸借対照表について
 - ② 議案第2号 財産目録について
 - ③ 議案第3号 社会福祉充実計画の承認について
- (2) 第2回評議員会 令和3年3月31日(水) 書面開催(出席者 9名/9名中)
- ① 議案第4号 理事の選任について
 - ② 議案第5号 報酬等規程の一部を改正する規程

8 事業並びに会計監査 令和2年6月8日(月)(赤塚監事、安田監事)

令和元年度事業及び会計監査を施設長並びに会計担当者からのヒアリング、書類審査

9 各種会議・委員会の開催

- (1) 経営企画会議 法人経営、施設運営に関する報告、検討、決定 毎月末日開催
- (2) 施設長会議 経営企画会議を受けて報告、検討、決定 毎月月初開催
- (3) 障害者施設長会議 施設運営に関する課題検討、決定 毎月2回開催
- (4) 人事給与検討委員会 給与制度改正のための検討(令和元年度は経営企画会議にて実施)
- (5) 研修委員会 職員研修計画、企画、検討、実施運営 随時その都度開催
- (6) 中央衛生委員会 職員の労働環境や健康、衛生に関する検討、実施 年4回開催
※ 事業場衛生委員会は毎月開催
- (7) 情報セキュリティー委員会 個人情報保護、漏洩防止の検討、実施(施設長会議で毎月開催)
- (8) リスクマネジメント委員会 事故事例検討、再発防止対策等の協議(施設長会議で毎月開催)
- (9) 広報委員会 広報紙やHPの企画、構成、発行、内容検討等 定期的に開催
- (10) 第11回実践発表会 今年度は発表会は行わず、実践レポートの提出のみ
レポート提出事業所数 15事業所
- (11) 快適職場アクション2020 誰でも相談室の実施(毎月第三火曜日)
ストレスチェックの実施(令和2年7月15日~31日)
新任施設長、係長、主任面談
- (12) 職員確保プロジェクト 各大学、専門学校への就職斡旋、広報活動、各種就職セミナーに参加し、募集活動を行った結果、中途採用者15名、新卒者4名、合計19名を採用

10 職員研修

毎月の研修委員会で検討、企画し、今年度は主に各階層別の研修を実施

(1) 初級職員研修(対象:1~3年目職員)

① 採用時新人職員研修(対象:新人職員) 全8回

実施日 令和2年4月1日(水)~3日(金)他4回 参加者25名
内容 法人・各施設の概要と課題、見学、挨拶、支援・介護の基礎、法人規程等の講義

② 半年後新人職員研修(対象:新人職員) 全2回 参加者21名

実施日 令和2年9月14日(月)/10月15日(木)
内容 理事長講義、(講師:三好良子氏(人材育成コンサルタント))

③ 初級職員研修(対象:2年目職員) 全4回 参加者36名

実施日 令和2年9月14日(月)/10月8日(木)/10月30日(金)午前/10月30日(金)午後
内容 理事長講義、(講師:三好良子氏(人材育成コンサルタント))

④ 初級職員研修(対象:3年目職員)

実施日 第1回 令和2年9月25日(木) ZOOMにて 研修説明会 参加者7名

実施日 第2回 令和2年11月16日(月) 構想発表、グループワーク 参加者6名
実施日 第3回 令和3年1月8日(金) 実践発表会 ZOOMにて 発表者6名
※2年目職員8名視聴参加(後日視聴も含め)
内 容 提案力・伝達力・育成力強化のため、個々の業務上の課題、取組、成果を各自発表

(2) 新任係長評価者研修

実施日 令和2年4月9日(木) 参加者1名
内 容 「人事評価制度の説明と評価者の留意点を学ぶ」

(3) 経営幹部研修(対象:統括施設長2名、施設長級職員3名) 全3回

実施日 令和2年10月2日(金)/11月16日(月)/12月14日(月)
内 容 法人の諸課題についての意見討論、質疑など
講 師 メンタルクリエイト 江口毅先生

11 災害対策等

- (1) 防災訓練等(障害者総合センター) 1回
令和2年11月27日(金) 避難訓練
(2) 普通救命講習(正規職員は全員取得を義務付け)
今年度は新型コロナの影響のため中止

12 地域交流

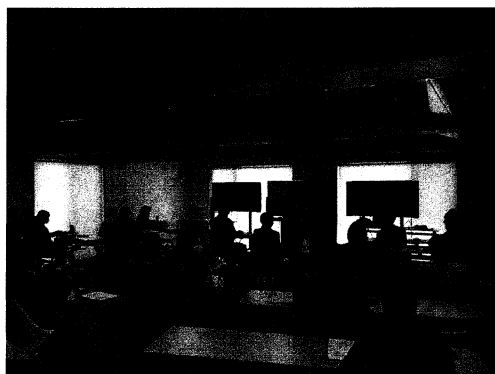
第20回むさしのあったかまつり 新型コロナ感染症のため中止

13 広報活動

- (1) ホームページ運営(法人・施設の最新情報を毎月更新)
(2) 法人広報紙「ふれっそ」を年4回発行(第48号から51号)
(3) 法人内月報「武蔵野日記」を毎月発行
(4) 法人専用電子メールアドレス・カレンダー機能による法人内の連絡・情報の共有化、活用の徹底

14 その他

- (1) 月次会計監査の実施 会計事務所による会計監査の毎月実施 他に消費税計算及び会計相談
(2) 外部監査 今年度はなし
(3) 安全運転管理 安全運転講習会は今年度はなし 法人保有車両42台 自転車45台



令和2年度 採用時研修 令和2年4月1日

令和2年度 指定障害福祉サービス事業
「ワークセンター大地」(生活介護)事業報告

1 事業運営について

今年度は、年度初めには新規利用者はおらず、昨年度末と同じ利用者で1年がスタートした。8月に新規利用者(3月に特別支援学校を卒業されて通所先が決まっていなかった方)が1名加わった。そして年度末にはお一人の利用者がわくらす武蔵野に移ることになり大地を退所された。

今年度は新型コロナウイルスが様々な形で影響を及ぼした年となった。第1回目の緊急事態宣言が発出された後は、通所日数を最大週3日に制限し、感染予防のため密を避ける対策を講じた。その後5月には週4日、7月には週5日の通所へと戻して、休業することなく営業を継続した。この間、自宅待機されているご利用者の方々にはほぼ毎日電話連絡をして状況確認を行い、ご本人、ご家族とのやり取りに努めた。家族会と個別面談は中止して、必要な情報は誌面や電話でやりとりするようにした。また、公用車は定員の1/2の乗車率を設定し、送迎も2便体制で実施した。宿泊旅行等の大きな行事は中止としたが、代わりに感染予防対策を講じたうえで可能なお楽しみ会等の小さなイベントを適宜実施して日常にゆとりや変化をつけるよう工夫した。基本的な感染予防対策(手洗い・消毒・マスクや手袋着用・換気・検温・行動記録・対応グッズの整備等)は徹底して行った。1月にご利用者1名がコロナウイルスに感染し入院治療となったが、ご家族やご利用者に感染が拡大することなく、当該ご利用者も現在は元気に通所している。この時、濃厚接触者と認定されたご利用者や職員はいなかったが、館内消毒と安全確認のため2日間休業し、法人独自にPCR検査を実施、受けた人全員が陰性であった。

2月から3月にかけて、当法人グループホームの再編・機能強化が行われ、大地のご利用者でグループホーム入居の方々の一部引越を行った。また、新たに入居された方々を含めると計17人がグループホームで暮らすこととなっている(ほかにも単身生活の方2人)。当法人の障害部門が目指す地域自立生活とその支援が徐々に形になっていることを感じさせられた。高齢化に伴うご利用者の変化に関しては関係機関とも連携して対応し支援を行った。高齢化・重度化の状況は今後も加速すると予想され、部門全体の課題として次期中期計画にも記載し取り組むこととなった。

当事業所はこれまでの運営での良い部分を引き継ぎつつ、新たな視点も加えてより良い支援を行うために取り組んでいく節目の時を迎えている。コロナの影響はしばらく続く予想されるが、法人内他事業所とも協働して新たな支援や活動を模索していきたい。そして、事業所理念にも掲げている「多様なはたらき方」を追求しながら、今後も利用者中心の支援を行っていきたい。

2 利用者の状況

(1)利用者数

(令和3年3月31日現在、単位:人)

	前年度末	入所	退所	年度末
男性	26	1	0	27
女性	9	0	0	9
合計	35	1	0	36

(2) 年齢別利用者数

平均年齢 39.4歳

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	計
男性	1	6	8	8	3	1	27
女性	0	3	1	3	1	1	9
合計	1	9	9	11	4	2	36

(3) 障害程度別利用者数

愛の手帳		1度	2度	3度	4度	愛の手帳なし	計
身障手帳	1級		1			1	2
	2級						0
	3級						0
	4級以下		1	3			4
	身障手帳なし		16	10	4		30
合計			18	13	4	1	36

(4) 障害者総合支援法による障害支援区分の数

生活介護	計 53 人	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6
		1	13	17	5	0

(5) 利用日数

週 5 日	週 4 日	週 3 日	週 2 日	週 1 日
34	1	0	1	0

(6) 活動時間

午前 9 時から受け入れ、午後 4 時終了

(7) 通所方法

自力通所 19 人、施設送迎(送迎車) 13 人、家族付添い 3 人
なお、東京都補助金より交通費の支給を 8 人が受けている。

(8) 年間利用状況

延べ人数 年間合計 6,647 人(通所サービス日数 243 日) 1日平均 27.4 人 (76%)

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
349	224	511	620	585	631
10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
702	615	645	539	520	706

(単位: 人)

※コロナウィルス感染防止対策のため、4/13~5月末までは通所日最大一人週 3 日に、6/1~6/30までは通所日数最大一人週 4 日とし、希望を伺って調整した。

3 活動全般

(1) 活動体制

利用者の状況やニーズに応じて 3 つのグループ体制のもと支援を行った。

グループ	作業分担(主担当)	場所
サンカ	軽作業、受注作業(キャンプ道具や救急セットの封入)、和紙づくり、自主製品等の作業(押し花コースター、葉づくり、ビーズ)、チラシ配布、ポスティング、他	3 階
ナナカ	受注活動を中心とした室内作業、軽作業、紙作業、公園清掃、ポスティング、チラシ折り、刺繍、他	2 階
ハッカ	受注活動を中心とした室内作業、軽作業、紙作業、公園清掃、ポスティング、チラシ折り、刺繍、他	2 階

(2)活動内容

プログラム	内 容	ねらい
作業 プログラム	①軽作業(榮太樓、キャンプ道具や救急セットの封入、ボタン組み立て、封入封緘、チラシ折り) ②公園清掃 ③ポスティング(リビングむさしの、桜井造園、四丁目マルシェ他) ④チラシ配り ⑤紙作業(紙ちぎり、ラミネートはがし、リサイクル) ⑥地域での作業活動(アパート清掃等) ⑦自主製品の作成(押し花コースター、葉、ビーズ、刺繍)	自立への意欲を高める 人間関係づくり 社会ルールの習得 基本生活習慣の形成 社会への参加、成長意欲を高める
生活 プログラム	スポーツ(サッカー、ウォーキング、エクササイズ、市開催のスポーツ広場の参加)、カラオケ、図書館、買い物 暑気払い食事会、納涼会、忘年会、年度末会、お楽しみ会	本人の社会参加をすすめる活動。 社会とのつながり、人とのつながりをつくる

※

コロナ感染防止対策の為、宿泊旅行や1日外出、外食、調理等のプログラムは中止し、小さなお楽しみを企画した。
また、緊急事態宣言発令中は図書館活動や買い物は控え、外活動においては密を避けながら行った。

(3)工賃規定にもとづいて以下の工賃を支給した。

2020年度工賃支給総額 1,745,920円

(4)行事等

上記同様、コロナ感染防止対策のため、宿泊旅行は中止とした。

4 その他の活動

(1)保健・給食

健康管理・健康診断(2回)

※例年行われていた歯科検診、耳鼻科検診は受診できる人数に限られ、人選が困難なため行っていない。

(2)防災(避難)訓練

山びこ・大地合同防災訓練(1回)、年2回の災害伝言ダイヤル活用訓練を実施した。

(3)家族関連

家族連絡会は、コロナ感染防止対策のため中止とした。

個別面談も同様、基本的には中止としたが、今年度新規利用のご家族や希望のあったご家族の面談は行った。

(4)実習の受け入れ

特別支援学校生徒の実習の受け入れ 3名 (延)11人

※夏休み通所体験、福祉士実習、介護体験、全て中止とした。

(5)ボランティア受け入れ

延べ 0人(作業活動、外出など)

※2020年3月よりコロナ感染防止対策のため、ボランティアの受け入れを控えた。

(6)地域関連機関や団体との連携

武蔵野市地域自立支援協議会の「当事者」部会に参加

(7)職員研修

①施設内研修「ストレングス研修」

「ヒコラボ」

『HEY 重度 意思決定 全力サポート』(映像)を見て考える(全2回)

「制度を知る」(全4回)

「ご利用者を知る」(全5回/ケース会議)

②法人研修

3年目研修、2年目研修、半年後研修、

安全運転講習会

③武蔵野市関係(延2人)

武蔵野市精神保健福祉研修(コロナ関係)

④外部研修(延13人)

東京都通所活動施設職員研修会研修 / 東社協関係/サビ管更新研修/虐待防止研修

武蔵野市福祉公社(認知症支援研修会)/その他

⑤その他

(8)苦情受け付け状況

今年度の苦情は3件であった。 解決済・報告済。

令和2年度 指定障害福祉サービス事業
「デイセンター山びこ」(生活介護)事業報告

1 事業運営について

今年度は、年度初めに特別支援学校を卒業した男性4名が入所した。できるだけスムーズに山びこの活動に慣れていただくため入所前後で配慮しながら受け入れをした。また、8月中旬から、それまでわくらす武蔵野を利用されていた方が再度山びこを利用されることになり入所した。そして年度末にはお一人の利用者がわくらす武蔵野に移ることになり3/31付で退所された。

今年度は新型コロナウイルスが様々な形で影響を及ぼした年となった。第1回目の緊急事態宣言が発出された後は、通所日数を最大週3日に制限し、感染予防のため密を避ける対策を講じた。その後5月には週4日、7月には週5日の通所へと戻して、休業することなく営業を継続した。この間、自宅待機されているご利用者の方々にはほぼ毎日電話連絡をして状況確認を行い、ご本人、ご家族とのやり取りに努めた。家族会と個別面談は中止して、必要な情報は紙面や電話でやりとりするようにした。また、公用車は定員の1/2の乗車率を設定し、送迎も2便体制で実施した。宿泊旅行等の大きな行事は中止としたが、代わりに感染予防対策を講じたうえで可能なお楽しみ会等の小さなイベントを適宜実施して日常にゆとりや変化をつけるよう工夫した。基本的な感染予防対策(手洗い・消毒・マスクや手袋着用・換気・検温・行動記録・対応グッズの整備等)は徹底して行った。ご利用者・職員のご家族に陽性者がいたものの、ご利用者本人や職員には感染者はおらず、年度末まで運営することができた。

2月から3月にかけて、当法人グループホームの再編・機能強化が行われ、山びこのご利用者でGH入居の方々の一部引越を行った。また、新たに入居される方々を含めると計11人がグループホームで暮らすこととなっている。当法人の障害部門が目指す地域自立生活とその支援が徐々に形になっていることを感じさせられた。高齢化に伴うご利用者の変化に関しては関係機関とも連携して対応し支援を行った。高齢化・重度化の状況は今後も加速すると予想され、部門全体の課題として次期中期計画にも記載し取り組むこととなった。

当事業所はこれまでの運営での良い部分を引き継ぎつつ、新たな視点も加えてより良い支援を行うために取り組んでいく節目の時を迎えている。コロナの影響はしばらく続くと予想されるが、法人内他事業所とも協働して新たな支援や活動を模索していきたい。今年度取り組んだ活動を充実させる動きをさらに進め、創作活動や受注作業等を地域の中で展開していく予定である。そして、事業所理念にも掲げている「あたたかいつながりをはぐくみながら自分らしく生きる」ことを追求しながら、今後も利用者中心の支援を行っていきたい。

2 利用者の状況と活動全般

(令和3年3月31日現在、単位：人)

(1) 利用者数 (定員40人)

	前年度末	入所	退所	年度末
男性	29	4	0	33
女性	14	1	1	14
合計	43	5	1	47

(2) 年齢別利用者数 (平均年齢33.8歳)

	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	計
男性	4	14	5	7	3	33
女性	0	2	6	5	1	14
合計	4	16	11	12	4	47

(3) 障害程度別利用者数

		愛の手帳(療育手帳)				
		1度	2度	3度	4度	(合計)
身 障 手 帳	1級					
	2級		2			2
	3級		1			1
	4級以下		1			1
	なし		36	4	3	43
	合計		40	4	3	47

※精神障害者保健福祉手帳 1名(1級)

(4) 障害者自立支援法による障害程度区分の数 (平均 4.4)

区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6
		7	19	14	7

(5) 活動時間

午前 9 時 00 分から受入、午後 4 時 00 分終了 (送迎利用者は 15 時から 15 時 30 分に送迎車出発)
 なお、これに限らず家族からの要請があれば時間前受入、時間延長など柔軟に対応した。

(6) 通所方法

- ・施設送迎 30 人 (うちグループホーム 7 名)、家族送迎 8 名、単独通所 7 名。令和 3 年 3 月 31 日現在施設送迎以外の方も必要に応じて送迎を行った。
- ・6 月 1 日からコロナ感染症対策として送迎車内の密を避けるため行き帰り各々 2 便に増便した。

(7) 年間利用状況

延べ人数 年間合計 8879 名 (通所サービス日数 243 日) 1 日平均 36.5 人

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
634	560	740	788	730	764
10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
856	747	781	706	689	884

(8) 活動について

〈基本活動〉

- ・5 グループにより、メイン活動 (織物、缶回収、地域活動、創作活動、健康など) とフリーデイ (個々のニーズに合わせた活動) を中心に活動を提供した。
- ・3 密回避、活動室換気、手指消毒の励行を意識した活動を心掛けた。

《販売活動》

(内部企画)

- ・コロナ禍を考慮し、つむぐとでの販売は停止。
- ・輪っかになろう展、つむぐとワゴン（行商）などで店外販売につとめた。

(外部企画) コロナ禍で外部イベントは全体的に中止となった。

《宿泊旅行》 コロナ禍を考慮し、中止。

《その他イベント》

エコreゾートの開館イベントに映像の提供や来場者向けノベルティグッズ制作に関わった。
入所式、新年と成人を祝う会（ZOOM開催）、春の日（終業の集い）（ZOOM開催）を実施した。

3 その他の活動

(1) 保健・給食

- ・健康管理として、健康診断（2回） ※歯科検診、耳鼻科検診は行わず
- ・給食について、利用者の状況に合わせた給食を提供した（刻み食、マッシュ食、ペースト食など）。
- ・職場内研修として、感染症予防研修を実施した。
- ・コロナ禍を考慮し、防護服の着脱の実践訓練をグループ単位で実施した。
- ・全送迎車、全活動室の消毒を励行し結果を記録した。

(2) 防災（避難）訓練

- ・コロナ禍を考慮し、利用者も参加する全館避難の実践訓練は行わず、山びこ、大地合同で、職員による避難経路の確認、消火設備の使用方法、避難時の基礎知識等を学ぶ機会とした。

(3) 家族関連

- ・家族会はコロナ禍を考慮し開催を見送った。
- ・年度末の個別面談はコロナ禍を考慮し行わず、書面でのやりとりとした。その後、個別支援計画を作成、送付した。

(4) 実習の受け入れ、見学

- ・実習：特別支援学校生徒3名
- ・見学：社会福祉士実習生、東学園・田無特支・小平特支保護者、田無特支教員、睦月会職員、武蔵野大学通信学生と教員

(5) ボランティア受け入れ

- ・緊急事態宣言中は受け入れ停止。それ例外の間はボランティアと協議の上、活動協力、利用者支援に関わっていただいた。

(6) 地域関連機関や団体との連携

- ・企画への参加：むさしの環境フェスタ、エコreゾートオープニングイベント
- ・出店：ちいさな輪っかになろう展（総合センター1階）、つむぐとワゴン（さくらごはん、グリーンパーク商店会で行商）等 ※むさしのあったかまつりは中止

(7) 広報

山びこ広報紙「やーっ報」を年2回発行した。

(8) 工賃の支給について

- ・工賃の支給についてはこれまでと同様、事業所の支給規定により、毎月工賃計算を行い半年ごと(年2回)全ての利用者に支給した。1年間の支払い総額は1,243,310円であった。

(9) 職員研修

①山びこ内部研修・3事業所合同研修

支援再考研修/活動充実PT/新入職者OJT/つむラボ/ケース検討会/音楽療法/感染症研修/防災研修 等

②法人研修

中堅層リーダー研修/2、3年目職員研修/新規採用職員研修/実践発表会 等
他事業所のケース会議等に研修目的で参加

③外部研修

武蔵野市主催研修/東京都障害者通所活動施設職員研修/強度行動障害支援者養成研修(基礎・実践)
東京都社会福祉協議会主催研修/東京都社会福祉協議会福祉人材センター主催研修 等
他、施設長が他法人等の研修で複数回講師を務めた

- (10)イブニングケア 当法人のご利用者で、強度行動障害の判定が出ていて、かつ、短期入所(市単事業含む)・行動援護・移動支援のサービスが概ね半年程度使えていない方を対象に、月1回通所終了後の時間帯に支援を行った。山びこのご利用者2名が対象で利用を希望されたため実施した。10月～3月までの期間 計13回実施した。

4 苦情受付状況 今年度の苦情は2件であった。いずれも報告済・解決済。

5 コロナ感染症に関する対応履歴

【令和2年】

4/7～5/6 緊急事態宣言

4/13～5/31 週の通所日数を5日から3日に。これに伴い職員の一部自宅休業。

4/15 在宅サービス開始

(通所していないご利用者ご家族に電話で状況確認、相談を行なうサービス)

5/11～5/30 わくらすへ応援職員2名派遣

6/1～6/30 週の通所日数を3日から4日に。これに伴い職員の一部自宅休業。

6/1～ 送迎車内の密を避けるため行き帰り各々2便送迎体制開始。

6/8～25 わくらすへ応援職員2名派遣

7/1 週5日通所再開。2便送迎体制継続。

【令和3年】

1/7～3/7 緊急事態宣言(再)

1/7～3/7 週の通所日数は5日、2便送迎体制継続。

乗車前の検温、手指消毒、職員行動履歴記録開始

令和2年度 指定障害福祉サービス事業
「デイセンターふれあい」(生活介護事業所) 事業報告

1 事業全般について

今年度はご利用者24名から始まったが、5月に生活リハビリサポートすばるより1名入所され、8月と10月に2名退所してわくらす武蔵野に異動した。現在23名の在籍となっている。

新型コロナウイルス感染症対策として、密を避けるため4月13日よりご利用者に自宅待機の依頼と通所の回数の制限をさせて頂き、6月1日より自宅待機解除、7月1日より通所制限の解除を行った。その後も看護師が中心になって施設内や送迎時の衛生・感染症対策を行い、外出活動を控える、職員の動きを限定し記録する、医療的ケアのあるご利用者は活動室を限定する、手洗い消毒マスク着用の徹底、密を避けた環境設定等の対応を行いながら活動を継続している。また外出が出来ない分、リモートでの活動を積極的に取り入れている。

プロジェクトとして、引き続き意思決定支援と創作活動を検討するDCFとに分かれて毎月ミーティングを行った。意思決定支援では、ケアノートに意思決定支援の記録を蓄積し、来年度の個別支援計画へつなげていく取り組みを行っている。またDCFでは、法人全体の創作活動チーム「つむぐと」と連動し新たな商品のアイデア募集の企画を行い、アイデアを実際の商品にするための試作品づくりを行っている。また今年度新たに領域別プログラムを設定し、年間通して週1回継続して行った。高次脳機能障害と視覚障害の障害特性に合わせた小グループの活動を行うことで、ご利用者の自発的な行動を引き出すことができている。医療的ケアについては東京都より登録喀痰吸引等事業者(登録特定行為事業者)の登録を受け、看護師と連携しながら支援員による医療的ケアを日々の支援の中で行った。

2 利用者の状況と活動全般

(令和3年3月31日現在 単位:人)

(1) 利用者数

	前年度末	入所	退所	年度末
男性	13	0	1	12
女性	11	1	1	11
合計	24	1	2	23

(2) 年齢別利用者数 平均年齢 35.3才

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	計
男性	0	5	2	4	0	1	0	12
女性	0	3	1	2	3	2	0	11
合計	0	8	3	6	3	3	0	23

(3) 障害程度別利用者数

愛の手帳		1度	2度	3度	4度	愛の手帳なし	計
身障手帳	1級	5	3	0	0	7	15
	2級	1	1	0	2	2	6
	3級	0	1	0	0	0	1
	4級以下	0	1	0	0	0	1
	身障手帳なし	0	0	0	0	0	0
計		6	6	0	2	9	23

*他に精神障害者保健福祉手帳の所持者あり

(4) 障害者自立支援法による障害程度区分の数

区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
0	0	1	2	4	16

(5) 利用日数

週5日	週4日	週3日	週2日	週1日
16	2	3	0	2

(6) 営業時間

9時から受け入れ、16時終了(活動時間は10時から15:30)

(7) 通所方法

施設送迎 23人

(8) 年間利用状況

延べ人数 3,433人 (通所サービス日数 243日)

1日平均 14.1人

4月	5月	6月	7月	8月	9月
243	207	282	302	301	301
10月	11月	12月	1月	2月	3月
327	291	308	253	269	349

* 4月～6月に在宅サービス(電話での状況確認) 223人込み

(単位:人)

(9) 活動について

- ・新型コロナウイルス感染症対策のため、宿泊旅行・外出・喫茶・外部でのイベント中止。
- ・リモートでの活動

リモート交流会	7月29日・7月31日・11月30日 新宿あゆみの家、足立区綾瀬福祉園、墨田区のぞみの家
ロボット美術館鑑賞	8月28日新宿あゆみの家、あかしあ園、ワークセンター大地と合同で
オンライン 創作ワークショップ	10月1日
リモート音楽	11月より月2回程度「ギロックフレンズ in 東京」の音楽を会議室で演奏して、オンラインで各活動室と繋ぐ方式で実施。
大学生からの zoomインタビュー	12月15日武蔵野大学社会福祉学科2年生の学生3名によるご利用者、職員へのインタビュー。後日成果を社会福祉学科1年生へ発表している。
リモート買物	コンビニエンスストアの商品を職員が動画で撮り、ご利用者に選択してもらい購入
医療的ケアが必要な ご利用者の活動室と のリモート活動	行事や月例会、bookbook こんにちは、皆さんで作る活動、カラオケなどの活動時に活動室同士をつなぎ合同で参加

・作品展、販売等

① マジェルカ	年間通して吉祥寺マジェルカにて販売。オンラインショップへも掲載販売。
② 小さな輪っか展	11月11日・12月15日 「つむぐと」合同、障害者総合センター入り口で展示販売

・売り上げ配分(工賃)

作品の1年分の売り上げから材料費(30%)を控除した上で、作品制作に関わった利用者に配分金(工賃)として4月に配分。 合計 272,546円

- ・法人全体の創作活動チーム「つむぐと」と合同での展示販売の実施。
- ・季節行事として、夏まつり、クリスマス会、新年会を、新型コロナウイルス感染症対策をしながら行った。

3 その他の活動

(1) 保健・給食

- ① 機能訓練・理学療法士(週2回)の助言を受け、機能訓練の実施
- ② 健康管理・健康診断(2回)
- ③ 摂食・ペースト状特別食等、摂食しやすいような配慮

(2) 防災(避難)訓練

年1回実施

(3) 家族関連

家族連絡会を新型コロナウイルス感染症対策のため中止。その代わりに家族連絡会ニュースを配布(1回)

(4) 実習の受け入れ

① 特別支援学校生徒の実習の受け入れ

都立府中けやきの森学園肢体教育部門高等部から 2年生1人

② 特別支援学校生徒の授業見学訪問

都立小平特別支援学校に 2年生2人

(5) ボランティア受け入れ

新型コロナウイルス感染症対策のためご利用者に直接かかわるボランティアの受け入れを中止し、作業や作品の製品化の手伝いを依頼。定期的にボランティア担当より施設の状況をお伝えしている。年間延べ5人

(6) 地域関連機関や団体との連携

- ・大野田地域防災会に参加
- ・アールブリュット実行委員に参加
- ・高次脳機能障害関係連絡会の運営委員に継続して加わった。

(7) 職員研修、ほか

① プロジェクトチーム

DCF(創作活動)、意思決定支援のグループに分かれて実施

② ふれあい内部研修

- ・意思決定支援勉強会、感染症対策研修、ケース検討会議、支援検討会議、ふれあいマニュアル作成、マッスルスーツデモ

③ 法人研修

- ・2年目職員研修、実践報告

④ 外部研修

- ・訴訟を意識した記録の書き方、高次脳機能障害者相談支援研修会、怒りやイライラの感情と上手に付き合う方法～障害のある方を支える上で求められるアンガーマネジメント～、福祉職場に求められるリーダーシップのあり方～主体性のある職員組織を作るために～、高次脳機能障害者のある方を支える制度の活用について～事例とともに～、「個別支援計画」を再考するIV～個別支援計画と日々の記録そのマネジメント～、重症心身障害児者の支援の基本と実践「重症心身障害児者の食事支援」～楽しい食事のために～、重症者の痰の吸引等医療的ケア支援者養成研修

(8) 事故報告

14件

(9) 苦情受け付け

0件

令和2年度 地域活動支援センター事業・指定特定相談支援事業・指定一般相談支援事業
「地域生活支援センターびーと」 事業報告

1 事業運営

緊急事態宣言を受けて昨年度末より自粛してきた相談支援事業や、地域活動支援センター事業、市民向け事業の段階的な再開を目標に、今年度は事業を展開してきた。

感染拡大防止策を講じながら、電話やメールの他、オンラインツールなども活用し、新たな取り組みを試行しながらの1年となった。一時は事業所を2カ所に分散するなど、職員間の距離や空間も密を避けながら業務の遂行に努めている。

2 相談支援の状況（令和2年4月～令和3年3月の実績）

(1) 基本相談と計画相談（指定特定相談支援事業・指定一般相談支援事業）の概要

総相談受付件数は昨年度対比約0.76%の減。新型コロナウイルス感染症対策の影響を受けて、来所者数や訪問回数が減り、びーと創設以来、初めての減数となった。

(2) 相談受付総数と内訳

総相談受付件数：16,114件（年度合計）昨年度は16,237件（-123件）

実相談件数人数：663人（年度合計）昨年度は656人（+7人）

新規基本相談件数：79人（年度合計）内、継続支援している人は13人/昨年度69人・14人

新規計画相談件数：15人（年度合計）昨年度は22人（-7人）

相談区分	身体	重心	知的	精神	発達	高次脳	重複	他	合計 (区分別)
基本相談	425	6	2,460	385	99	3	395	239	4,012
計画相談	420	31	2,429	35	35	0	152	5	3,107
ピアカウンセリング	12	0	15	3	0	0	0	0	30
専門機関	1,084	86	5,411	275	82	8	867	1,012	8,825
時間外対応	1	0	21	5	0	0	0	113	140
合計	1,942	123	10,336	703	216	11	1,414	1,369	16,114

※ 総件数が昨年度比の約0.76%減（昨年度は約1.3%の増、一昨年は約4%の増）

事業開始以来、初めての前年度比減となった。

知的障害関係の相談が突出して多く、全体の64.1%を占めている。

(3) 相談受付先

NO	区分	件数	割合(%)	NO	区分	件数	割合(%)
1	本人からの相談	4,478	27.7	6	親戚からの相談	75	0.5
2	父母からの相談	2,307	14.3	7	関係機関との連携	8,825	54.8
3	配偶者からの相談	4	0.03	8	知人・友人からの相談	7	0.05
4	子からの相談	0	0	9	一般市民の相談	129	0.8
5	兄弟姉妹からの相談	286	1.8	10	その他(匿名者他)	3	0.02

※各件数は昨年度より減となっているものの、各項目の割合は概ね例年と同様の傾向がみられる。

びーと単体で支援を完結させるのではなく、関係機関との連携によりケースを支えている傾向が集計にも顕著に表れていた。

3 地域活動支援センター事業

(1) 参加者数など(令和2年4月～令和3年3月の実績) 合計7,028人(前年比-1,531人)単位:人

名称	動画配信	道場・上映会	PC教室	ぴあクラブ	体験塾	手芸教室	男子会
人数	184	482	538	71	60	371	68
名称	公開セミナー	見学等支援	サポーター	地域交流	市民向け	他団体	その他
人数	162	36	42	1,350	3,077	446	141

(未実施の自粛プログラムや問合せのみのものは上記集計から除外しています。)

※合計値が、昨年度と比較して約13.5%の減。感染防止対策により未開催の企画が多数あったため。

(2) 各事業の概要

新型コロナウイルス対策により、令和2年2月下旬より地域活動支援センター事業を休止。

緊急事態宣言解除後、引き続き感染拡大の防止に努めながら6月より段階的に再開している。

ただし、マスクを外す場面のある飲食を伴うものや、飛沫感染などの予防として大きな声を出す活動等は引き続き休止した。

<活動再開を見合わせた活動>(順不同で記載)

- 北町ダンス倶楽部 … 障害者スポーツ指導員を講師に迎え、ダンスに楽しく取り組む
- わくきん … 「わくわく金曜広場」と利用者が命名。金曜日の夜に集まる当事者の集い
- みんなのキッチン … 調理体験と会食を通して参加者同士の交流を促進
- 女子会 … 女性登録者に限定し、女性ならではのテーマ設定により、様々な自立課題を体験
- サマーセミナー … 当事者向け学習会。生活に役立つスキルを皆で学ぶ場
- あったかまつり … 利用者有志の会が駄菓子屋を出店。企画から当日の運営までを担う
- 集まろう会 … 一般企業等就労者対象の当事者活動。参加者の話合で「集まろう会」と命名
- 北町食育くらぶ … 季節の行事を題材に、食をテーマにした学びの機会を提供する活動

<再開した活動>

※感染対策を講じて密を避けながら、小グループ制を導入するなどの配慮の上、開催している。

- ① 動画配信(新) … 「びーとちゃんねる」と名付け、登録者に向けた生活情報などを配信
※新型コロナウイルス感染症対策の為、活動が縮小されたことを受けて新たに企画
- ② 北町道場・上映会 … 仲間同士の交流をはかり、人とのつきあいを深める体験・交流の場
- ③ パソコン(PC)教室 … 希望する目的に応じたパソコンの学習教室。個別とグループ両方で実施
- ④ ぴあクラブ … 12月と3月に、人の接触を少なくした個別的な設定で開催
- ⑤ 暮らし体験塾 … 身近な生活テーマを取上げ体験を通して生活力をつける自立体験活動
- ⑥ 手芸教室 … 思い思いの作品作りに挑戦する趣味活動
- ⑦ 男子会 … 男性登録者に限定し、共通した趣味の話題などで交流
- ⑧ 公開セミナー … 「アンガーマネジメント」を今回は感染症対策としてリモート開催
- ⑨ 施設見学者への対応 … 相談から具体的な支援につなげる一環として通所施設等の見学を支援
- ⑩ サポータークラブ … 「びーとサポータークラブ」として活動に参加(限定して呼びかけ)
- ⑪ 地域との連携 … 福祉の会やボランティア団体など地域社会との連携活動
- ⑫ 市民向け事業 … 障害者総合センター来館者対応やフリースペースの利用など
- ⑬ 他団体 … 他法人や他団体他、法人外の団体や機関などとの情報交換・連絡調整
- ⑭ その他 … 地域活動支援事業全般に対する問い合わせや登録・契約など

(3) 月別の平均来館者数

地域活動支援センター事業関係の1日当たりの月別平均件数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人数①	11.8	11.0	15.5	17.9	19.0	20.5	24.1	25.9	23.9	24.2	24.2	24.2
人数②	10.9	8.7	11.9	10.4	15.5	15.2	20.8	17.3	20.5	16.0	15.1	15.9

※人数①は「対応等の件数+来館者数」の数値、人数②は「来館者数」

4 自立支援協議会

自立支援協議会(親会議)委員として、相談支援事業所の代表者区分で施設長が出席。合わせて、相談支援部会の担当委員として部会活動にも参加。

また、相談支援部会・くらす部会・はたらく部会・権利擁護部会にそれぞれびーと職員を派遣。

5 市民・関係機関支援者等向け及び、当事者に向けた公開セミナー(学習会企画)

(1) 市民・関係機関支援者等向け公開セミナー

開催日：令和3年3月2日(火)

テーマ：怒りやイライラの感情と上手に付き合う方法

～障害のある方を支える上で求められるアンガーマネジメント～

講師：人材育成コンサルタント 三好良子氏(日本グループワーク・トレーニング協会理事長)

会場：ZOOMによるオンライン開催

受講者：50名の定員に対して多数の申し込みがあり75名で受付を終了。

当日はキャンセルがあり52名の参加となった。

申込み：初めてのリモート開催とともに、ウェブによる申し込み方式を初採用。

申込者の情報把握が円滑に行えた。

(2) 当事者向けサマーセミナー(学習会)

※新型コロナウイルス感染症対策のため、今年度は開催を見合わせた。

6 苦情・事故報告などについて

(1) 苦情受付件数：0件

(2) アクシデント報告：0件

7 職員の専門性や資質向上のための取り組みについて(主なものを分野ごとに抜粋して記載)

区分	開催研修テーマ	概要やテーマ等	主催
相談支援	相談支援従事者研修	主任相談支援員専門員研修	東京都福祉保健局
	市健康福祉部部内研修	訴訟等を意識した記録の書き方	武蔵野市健康福祉部
	成年後見制度市民講演会	成年後見制度の基礎知識	市成年後見利用支援センター
専門分野	強度行動障害支援者養成研修	強度行動障害基礎研修	東京都保健福祉財団
	虐待防止・権利擁護研修	福祉施設等管理者・従事者コース	東京都福祉保健局
	認知症支援研修	医療・心理・実践アプローチ	地域包括ケア人材育成センター

※上記の他に法人職員研修や事業所内の支援会議などを通じて、職員の専門性向上をはかった。

8 その他(その他の事業 ～一部重複掲載有～)

例年と同様に地域や行政などとの連携や協力に努めたが、新型コロナウイルス感染症対策のため、例年と比較するとその機会は少なかった。

連携先(一部を記載)：地域福祉の会、市地域自立支援協議会、東京都相談支援専門員ネットワーク、など

**令和 2 年度 指定障害福祉サービス事業
「ワークセンターけやき」（就労継続支援 A 型・B 型）事業報告**

1 事業運営について

平成 29 年度に策定した新たな事業理念「仕事を通してつながりをひろげ、自分らしく成長していく」に基づき、企業就労は成し得ないが雇用契約のもとで誇りを持って仕事をしたい方から、特別支援学校を卒業したばかりで働く習慣を身につける必要がある方まで、幅広い就労ニーズに応えるべく、より上質な就労機会の確保と個別支援の充実を軸に事業運営を行った。また、ジョブアシストいんくるの就労トレーニングの場として、引き続き作業センターを中心に事業連携・協力を行った。

そして新型コロナウイルス感染症の対策として、在宅支援の導入や「新しい生活様式」を取り入れた支援や現場の設定を行った。特に食品事業においては、外食に対する価値観が大きく変容するなかで、お客様に安全にご利用いただくための店舗づくりや、売り上げ確保のための新しい試み（テイクアウト）などの工夫に取り組んだ。

(1) 就労継続支援 A 型（雇用） 定員 10 名

必要とされる能力を有しながらも企業などで働く機会が得られない方に対して、印刷部門と食堂部門（市役所 8 階さくらごはん）で雇用契約を結び、合理的配慮ある労働環境を提供した。

(2) 就労継続支援 B 型 定員 30 名

封入等作業や天然酵母パン製造販売、喫茶パールブーケ運営を行い、福祉的な支援を受けながら働く機会を提供した。質の高い多様な働き方ができることから、問い合わせや見学は多いが、緊急事態宣言中は受け入れを停止したため、利用者増員につなげることができなかった。

2 利用者支援について

(1) 利用の状況

今年度は 2 名（特支 0、他 2）が新たに利用を開始、1 名が利用を終了（就職 0、いんくる移籍 0、他 1）し、年度末で 1 名増となった。ジョブアシストいんくるの就労トレーニングや体験実習に入る方も含めると、けやき利用者に加えて約 5 名の新規利用者を常時受け入れている。

① 利用者数 令和 3 年 3 月 31 日現在（単位：人）

事業別（定員）	前年度末	入所	退所	法人内移籍	今年度末
就労継続 A 型（10）	4	0	0	0	4
就労継続 B 型（30）	30	2	1	0	31
計	34	2	1	0	35

② 年齢別利用者数（平均年齢 37.6 歳） 令和 3 年 3 月 31 日現在（単位：人）

	10 歳代	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	65 歳以上	合計
男性	0	9	4	5	5	0	0	23
女性	0	2	6	2	2	0	0	12
合計	0	11	10	7	7	0	0	35

③ 障害・度数別利用者数

令和3年3月31日現在（単位：人）

		愛の手帳					合計
		1度	2度	3度	4度	なし	
身障手帳	1級					3	3
	2級					1	1
	3級			1			1
	4級以下				1	1	2
	なし			10	11	7(精神)	28
	合計	0	0	11	12	12	35

(2) 活動時間

①就労継続支援 A 型 9:00～16:00、週 5 日の勤務時間の内で、精神障害のある方の短時間雇用も含み、本人の状況に合わせて雇用環境を提供した。

②就労継続支援 B 型 8:00～16:00 の時間内で、それぞれ個別事情に応じて柔軟に設定した。

(3) 利用契約と個別支援計画

利用契約を結び、個別面談を行い、個別支援計画策定とモニタリングを半期毎に行った。

(4) 余暇活動支援

年末営業最終日に利用者交流会（希望者のみ）を実施した。ご利用者にも企画段階、当日の運営に参加できる機会を設けた。

(5) 保健衛生

①定期健康診断（コロナのため 11 月に延期）、内科検診等実施した。

②日常の作業時や行事の際の緊急時に備え、定期的に健康服薬調査を実施した。

(6) 就職支援・定着支援における取り組み

今年度の就職者数は 0 名

3 就労支援事業について

(1) 売上について

① 印刷・サイン（就労継続 A 型） 32,782,289 円

② 封入等軽作業（就労継続 B 型） 18,741,548 円（うち図書館委託業務 3,811,280 円）

③ 喫茶ベーカリー（就労継続 B 型） 20,143,906 円

④ 食堂（就労継続 A 型） 9,069,425 円 合計 80,737,168 円

・②以外は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、昨年度比がマイナスとなった。（①△30.6%、②+6.6%、③△23.0%、④△54.3%、全体△27.2%）

・食品事業については、お客様の安全対策で席数を減らしたこともあり、イートイン客の回復が未だ見込めない状況にある。

・②は、毎年行う官公庁の通知書関係については、時期のずれはあったものの作業自体は実施されるものが多く、売上が大きく下がることはなかった。一方で、今年度初めて受注した都下水道局のイベントグッズ封入作業（年間契約、約 350 万円）はイベント自体が中止となり、ほとんどの作業が中止となった。

(2) 印刷・サイン部門（西久保オフィス）

名刺、封筒、ポスター、チラシ、パンフレット、冊子、広報物等の印刷、名簿データ管理、T シャツプリントなどの作業を行った。例年同様、多摩地区を中心に官公庁からの受注、および営業活動を行った。営業職 1 名の退職に伴い、営業体制を専任 1 名、営業補助 1 名に変更した。

(3) 封入等軽作業部門（作業センター）

封入封緘作業、委託業務など、周辺区市の通知書の封入発送業務を中心に受注した。また近隣企業からは、ノベルティグッズや取説袋詰めなどの通年業務を受注した。作業以外の活動で、「働くうえでの好ましいコミュニケーション」をテーマにグループワークを通年で実施した。

(4) 喫茶ベーカリー部門（ベーカリー、パールブーケ、カフェ・ル・ブレ）

ご利用者に適した製パン方法を工夫することにより、ご利用者がより多くの製パン作業に関わることができるようになった。保育園からの受注量が増え、売上増につながった。SNSによる広報（インスタグラム）を充実させた。新型コロナウイルス感染症に伴うイートイン客の減少に対応するため、テイクアウトメニューの開発に努めた。「武蔵野市くらし地域応援券」の取り組みに参加し、令和3年2月22日～3月31日の売上に効果が見られた。（利用券222,500円分（500円券×445枚））

(5) 食堂部門（さくらごはん）

友好都市食材を使用したメニューを、引き続き開発、提供した。新型コロナウイルス感染症に伴うイートイン客の減少に対応するため、テイクアウトメニューの開発に努めた。「武蔵野市くらし地域応援券」の取り組みに参加し、令和3年2月22日～3月31日の売上に効果が見られた。（利用券90,500円分（500円券×181枚））

(6) 賃金・工賃について

①就労継続支援A型（雇用）

利用者と雇用契約を締結し、最低賃金以上を支給した。

②就労継続支援B型

新型コロナウイルス感染症の影響により就労支援事業の収益減が見込まれたため、工賃時間単価額の改定は行わなかった。工賃評価を令和2年10月に実施した。

4 サービス向上のための取り組み

(1) 職員研修

就労支援技術の研修を中心に、法人内外の職員研修を実施した。

(2) 人権擁護虐待防止に向けた取り組み

人権擁護セルフチェック（毎月）、人権擁護事業所チェックリスト（年2回）の実施

(3) 福祉サービス第三者評価（平成30年度受審）の結果に基づく改善事項の公表と実施

(4) 利用者満足度アンケートの実施と結果の公表

(5) 地域交流、貢献事業

毎年の行事として定着していたベーカリーの外販イベント（桜まつり、青空市、NTT研究所等）は、新型コロナウイルス感染症の影響で、ほとんどが中止となった。NTT研究所については、先方のご厚意により受注販売のみ実施し、イベント再開に備え関係性の維持に努めた。

5 その他

(1) ご利用者向け広報「けやきだより」発行（3回）

(2) 防災訓練実施

(3) 苦情受付状況 0件

令和 2 年度 指定障害福祉サービス事業
「ジョブアシストいんくる」(就労移行支援・就労定着支援) 事業報告

1 事業運営について

ジョブアシストいんくるは、就職を志す障害のある人を支え、企業就労を実現し、継続するための支援を行ってきた。

(1) 利用の状況 就労移行支援 定員 20 名

① 令和 2 年度末登録者数 (直 B アセスメント利用者 2 名を除く) (単位: 人)

事業別 (定員)	令和元年度末	新規利用開始	年度内利用終了	令和 2 年度末
就労移行 (20)	19	13	14 (内 7 名就職)	18

② 年齢別利用者数 (平均年齢 35.4 歳) 利用終了時もしくは年度末時点 (単位: 人)

	10 歳代	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	65 歳以上	合計
男性	0	10	4	3	2	0	0	19
女性	0	7	2	3	1	0	0	13
合計	0	17	6	6	3	0	0	32

③ 障害・度数別利用者数 利用終了時もしくは年度末時点 (単位: 人)

級/度	身体	知的	精神	なし	計
1	0	0	0	/	0
2	1	0	5		6
3	0	2	5		7
4	0	15			15
5	0	/	/	/	0
6	0				0
なし	/	/	/	4	4
計	1	17	10	4	32

・令和 2 年度の 1 年間で 13 人が新たに利用を開始している。昨年度より 6 名少ないのは、新型コロナウイルス感染症拡大防止措置として緊急事態宣言が発出されたことにより、年度当初から約 2 カ月余り新規ご利用希望の方に向けた見学や体験を中止したことが大きいと思われる。例年同様、新規ご利用者の多くは、各地域の就労支援センターや相談支援事業所などの関係機関から紹介を受けている。

・平均利用者数は 16.7 人と昨年度 (19.2 人) と比べて減少している。これは、昨年 4 月発出の緊急事態宣言により、一日当たりのご利用人数を制限せざるを得なかったことが大きな原因であり、実際 4 月は 11.0 人と他の月に比べ大きく減少している。

・令和 2 年度利用者は累計で 32 名になり、平均年齢は 35.4 歳であった (利用終了時、年度末に利用継続の場合は年度末時点)。

・昨年度と比べ、愛の手帳所持者が 17 名で半数以上を占めた。また、発達障害の診断もしくは傾向のある方が 19 名に達し、ともに増加傾向を示している。

(2) 就職者の状況

・令和 2 年度は 7 名が企業等に就職した。(令和 2 年 4 月 1 日採用の方は前年度実績に反映)

・手帳種別では愛の手帳所持者が 6 名、精神保健福祉手帳所持者が 1 名。また、全体のうち 6 名が発達障害の診断、もしくは傾向があるとされている方である。

・就職先の業務内容は事務系 (事務補助も含める) が 3 名、作業系 (清掃・店舗運営など) が 4 名。

・就業地域は半数以上の方が武蔵野三鷹地域となっている。

令和2年度 就職者の状況

(単位：人)

手帳種別	人数	業務内容	人数	就業場所	人数
精神	1	事務系	0	市内近隣	4
知的	6	事務補助系	3	都心部	3
身体	0	作業系	1	多摩地域	0
なし	0	店舗系	1	区部西部	0
計	7	厨房系	0		
		清掃系	2	計	7
		計	7		

(うち発達障害は6名)

- ・今年度就職者の就職先は以下の通り。

LINE ビジネスサポート(株)、みずほビジネスチャレンジド(株)、栄晃産業(株)、オーケー(株)、(公財)武蔵野生涯学習振興事業団、パーソルサンクス(株)、(社福)武蔵野

- ・開設以来(7年10カ月)では77人が就職し、のべ23人が残念ながら離職に至っている。

2 就労移行支援事業

(1) 支援プログラムについて

就労トレーニング・就活プログラム・パーソナルアシストを個人別利用カリキュラムにより実施した。また、個別に選択や組み合わせのアレンジを行うにあたり、利用者の理解を助けるために、個別面談やプログラム見学などを行った。

① 就労トレーニング(作業)

- ・「封入等作業」を基本作業としつつも、適性に合わせて幅広い作業種に携わる機会を関係機関と連携して提供した。(主な作業内容：封入封緘作業、清掃業務、図書館受託作業、厨房調理補助作業)

- ・企業体験実習：民間企業の協力で職場の見学・体験など施設外支援を多数実施した。(延べ30名)。また、東京しごと財団や東京労働局主催の企業体験実習も積極的に利用し、企業実習の機会を数多く提供した。

② 就活プログラム

ビジネススキルアップ(ビジネスマナー)、パソコン講座、オフィスワーク(事務スキル)、メモのとり方、セルフラーニング(自習機会)など就職活動に必要な知識、技術獲得の機会や、グループワーク、JSTなど利用者同士でのコミュニケーションスキルの向上を図る機会を幅広い利用者層に合わせて多層的に設定し実施した。

③ 就職準備(企業就労への支援)

履歴書作成や面接訓練などを、原則個別対応できめ細かく実施し効果を上げた。

求職活動や就職面接、雇用前実習、トライアル雇用に同行し、就職活動をサポートした。

(2) 活動時間

月曜日から金曜日、8:30~17:00の間で、各人の状況やプログラムの選択に合わせて柔軟な時間設定と利用日でカリキュラムを作成した。

(3) 利用契約と個別支援計画

利用契約を結び、個別面談を月2回以上実施し、本人の意向に沿って個別支援計画を策定し、3か月ごとにモニタリングを行った。

(4) 訓練手当について

就職に向けてのプログラムとしての意義から、作業実習に関わる時間については、東京都最低賃金の3分の1相当額を訓練手当として支給した。(年間平均で時間あたり340円を支給)

(5) 就職後の定着支援

- ・就職者については、半年を目安に定期訪問や面談などの定着支援を行った後、就労定着支援事業(後述3.)の利用か各地域の就労支援センターへの移管を就職者に選択していただいた。

- ・例年3,4回、就職者の会を開催していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、今年度は3月にオンライン形式で開催し、6名の方が参加。好評をいただいた。

3 就労定着支援事業

- ・毎月最低1回は就職者の方との面談を実施するのを基本に、必要に応じて職場訪問や通院同行、関係機関との連絡調整などを実施し、企業就労の継続を図った。
- ・就職後6ヶ月を経過しての登録になるため、順次契約を進め、令和2年度末時点での登録者は23名となった。

4 生活困窮者就労準備支援事業と被保護者就労準備支援事業

武蔵野市から生活困窮者自立支援事業の一部である就労準備支援事業と被保護者就労準備支援事業を受託して支援を一体的に実施した。自立相談を請け負う福祉公社や生活福祉課と毎月定期的にケースカンファレンスを行い、連携関係を構築した。従来から行っている「就活カフェ」や個別の相談による支援を中心にしながらも、継続的にコミュニケーションプログラムやPC講座、PC入力などのプログラムに参加する方も増えてきている。

5 サービス向上のための取り組み

(1) 職員研修

就労支援の支援技術向上のため、以下の研修に職員を派遣した。

- ・就業支援基礎研修
- ・職場適応援助者支援スキル向上研修
- ・生活困窮者支援事業実施者向け研修 他

(2) 苦情受付状況 1件

(3) 人権擁護虐待防止への取り組み

法人全体の人権擁護虐待防止委員会の設置に加え、施設単位でも自主チェックリストの実施などの取り組みを行った。

(4) 保健衛生

定期健康診断、内科検診等を実施した。

(5) 大規模災害時対応

大規模災害時を想定した初動マニュアルを整備し、地震を想定した避難訓練を実施した。

令和 2 年度「武蔵野市障害者就労支援センターあいる」事業報告

1 あいる登録者、支援の状況

(1) 登録者全体の状況（全 373 名の内訳）

手帳別人数		年代別人数		状況別人数	
手帳種別	人数	年代別	人数	状況	人数
身体障害	31	18～20 歳	13	在職	244
知的障害	128	21～29 歳	86	求職(在宅)	53
精神障害	205	30～39 歳	86	求職(施設)	34
なし	9	40～49 歳	114	その他	42
計	373	50～59 歳	52	計	373
		60 歳以上	22		
		計	373		

- ・精神障害者手帳所持者が登録者の 55%、発達障害のある方は 64 名で登録者の約 17%。40 歳以上の登録者が約半数にのぼることから高齢化が進行しているといえる。
- ・新規登録者数は 25 名。昨年度よりやや減少した。手帳種別では精神障害者保健福祉手帳が全体の約 80%を占める。このうち約半数が発達障害の診断を受けている。年齢別では 30 歳以上が約 65%を占めている。

(2) 新規就職者の状況

- ・新規就職者数は 27 名。昨年度の 33 名と比べ減少傾向。新型コロナウイルス感染症の影響により、採用活動が進まなかったことが主な原因と思われる。
- ・手帳種別では精神障害者保健福祉手帳が全体の 3 分の 2 を占める。気分障害、統合失調症等の精神疾患の方が多数。
- ・企業規模別では大企業就職者が全体の 80%を占める。

(3) 離職者の状況

- ・離職件数は 17 件。昨年度の 13 名と比べ増加傾向。
- ・手帳種別では精神障害者保健福祉手帳所持者が 8 割以上を占める。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響による離職は 2 名。

(4) 支援の状況

- ・来所者は昨年度と比べ減少傾向。新型コロナウイルス感染症の影響で茶話会などの集合イベントの開催を見合わせたことが主な原因で、職業相談のための来所者は昨年度並み。電話相談件数が大幅に増加している。
- ・職場定着支援件数は昨年度と比べ減少傾向。新型コロナウイルス感染症の影響で、一部企業にて訪問の制限を実施していることなどが主な原因と思われる。オンラインでの定着支援は徐々に実績が増えてきており、一般的な定着支援の形になりつつ

ある。

・新型コロナウイルス感染症の影響で、在職者は自宅待機や在宅勤務になる方もいたが、そのことが原因で大きく体調を崩す方はいなかった。

合計（件）

<支援内容別件数>

職業相談（就労全般）	4,347
就職準備支援（適性、能力の把握、就労意欲や職業能力の向上等）	196
職場開拓件数（独自の職場開拓）	16
職場実習（通勤援助、職務分析等）	82
職場定着支援	244
離職支援（諸手続き、調整等）	9
通院同行	25
家庭訪問	10
合 計	4,929

2 支援の取り組みについて

(1) 地域啓発、関係機関とのネットワーク

①市内就労移行支援事業所等との連携体制の強化

今年度は計5回の学習会を計画していたが、新型コロナウイルス感染症の影響で上半期は開催できず、下半期に以下の内容で3回の武蔵野市障害者就労支援ネットワーク会議を開催した。

第1回 11月26日「雇用前準備、募集・採用活動における企業支援」26名参加

第2回 12月3日「採用後の職場定着における企業支援」24名参加

第3回 3月11日「新型コロナウイルス感染症を要因とする雇止めに関する相談への対応と知識」22名参加

②武蔵野市自立支援協議会はたらく部会への参画

今年度も部会に職員を派遣したが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、部会として動きが取りづらい状況であり、コロナ禍における各事業所の情報共有にとどまった。

③多摩地域障害者就労支援事業所連絡会

今年度よりあいるが幹事市センターとして加わった。多摩地域の区市町村センターが抱えている課題について検討する情報共有機会の確保、学習会の企画等が主な役割。今年度は集合形式での学習会開催は難しく、多摩地域就労支援センターに向け、コロナ禍での支援状況に関するアンケート調査を実施した。

④武蔵野市、三鷹市、ハローワーク三鷹共催「障がい者の就労を考えるつどい」

三者で打ち合わせを重ねてきたが、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、今年度の開催は見送った。

(2) 就職準備支援

- ①武蔵野市庁舎内実習を2回実施。計19課で実習を受け入れた。
- ②昨年11月にオープンした市の新規施設「むさしのエコリゾート」において長期の実習受入の相談があり、障害者福祉課と連携して受入の調整を図っている。

(3) 余暇支援

- ①知的障害のある在職者対象の職場定着支援プログラム
全3回 各回6~8名参加。広いスペースの確保、会場での検温、マスク着用の徹底呼びかけなど、感染症対策を万全にして実施。例年グループワークを主体に行っていたが、今年度は新型コロナウイルス感染防止のため、座談会形式で実施した。
- ②精神障害のある在職者対象の自助会・発達障害のある方の自助会
新型コロナウイルス感染防止のため、今年度は実施せず。

3 職員育成

(1) 事例検討会

帝京大学元永教授をスーパーバイザーに招き、事例検討会を全6回実施。今年度は2名の職員交代があり、初めて事例発表を行う職員がいたが、職員間で活発な意見交換を行いながら、事例発表者が元気になる検討会を心掛けた。

(2) 各種専門研修

- ・新型コロナウイルス感染症の影響で、今年度は研修参加の機会自体が減少したが、今年度は19件の研修に参加した。
- ・オンライン研修の開催が増え、所内にいながら研修を受けられる機会が増えている。オンライン研修の様子を職員室スペースにプロジェクタで映し出し、都合のつく時間帯だけ職員が入れ替わり参加したり、意見交換しながら参加したりなど、時間と場所の制約が少ないオンライン研修への参加は今後も増えると思われる。
- ・2月16日、東京都ICT地域支援センター専門講師による「IT支援者養成研修」を開催。市内関係機関や障害者福祉課にも呼びかけ、最新のICT支援機器やアプリに触れ、知識を共有できた。

令和 2 年度 指定障害福祉サービス事業
「武蔵野福祉作業所」(就労移行・就労継続 B 型・生活介護)事業報告

1 事業運営について

今年度は、感染症対策として食堂や多目的室などを作業場等に活用し、利用者を分散させ集団の人数を減らして活動を実施した。また、利用時間の短縮や休憩時間を細分化することで利用者同士の接触時間を減らす、混雑時間を避けて通所する等の取り組みを行った。

4 月に新卒 3 名、中途 1 名の計 4 名の入所者を迎えた。年齢の分布をみると 60 歳以上の利用者が 9 名となり、内 70 歳以上が 7 名となった。平均年齢も 39.9 歳と高い。高齢利用者の介護保険サービスへの移行を適切な時期に進めるためには、就労を中心としたサービス形態であるという点を踏まえ、利用について一定の線引きが必要な時期に差し掛かっている。就労収入は、新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、前年度減となった。最も影響の大きかった食品事業については、レストラン事業で弁当販売を始めるなど新たな営業形態への取り組みを行った。

2 利用者の状況と活動全般

(1) 利用者数

令和 3 年 3 月 31 日現在 (単位人)

事業別 (定員)	前年度末	入所	事業間異動での増減	退所	今年度末
就労移行 (6)	0	0	0	0	0
就労継続 B 型 (64)	65	4	0	0	69
生活介護 (10)	12	0	0	0	12
計	77	4	0	0	81

(2) 年齢別利用者数 (平均年齢 39.7 歳)

令和 3 年 3 月 31 日現在 (単位人)

	10 歳代	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳以上	合計
男性	2	12	18	7	8	2	3	52
女性	1	7	7	4	6	0	4	29
合計	3	19	25	11	14	2	7	81

(3) 障害・度数別利用者数

令和 3 年 3 月 31 日現在 (単位人)

		愛の手帳				なし	精神手帳			合計
		1度	2度	3度	4度		1級	2級	3級	
身障手帳	1級	0	2	0	1	1	0	0	1	5
	2級	0	1	1	0	2	0	0	0	4
	3級	0	1	1	0	0	0	0	0	2
	4級以下	0	0	2	0	1	0	0	0	3
	なし	0	26	36	4	0	0	1	0	67
	合計	0	30	40	5	4	0	1	1	81

(4) 障害者自立支援法による障害支援区分の数

未確定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
23	0	11	26	15	6	0	81

(5) 活動時間

4月から5月にかけての緊急事態宣言期間は利用者に週3日程度の利用となるよう通所自粛の協力を求めた。その後も利用者個々の事情に合わせ、時差通所や利用自粛の希望に対応した。通所を自粛している利用者に対しては、意向を確認した上で在宅サービス（電話による支援）を行った。基本的な活動時間は9:00開始、16:00を基準に前後15分の中で終了と設定しているが、今年度は、感染症の拡大に伴い4月中旬より時間を短縮し、終了時間を15:00とした。時間構成についても本来は4コマのところを3コマとし、午前の15分休憩と昼休みのみとした。

(6) グループワークプログラム

少人数グループプログラム2種を実施。感染拡大に伴い「WG つながる」は、年度内の予定を中止した。他のプログラムについても4月から5月の緊急事態宣言期間は休止した。

名称	目的	内容
WG夢の扉（健康体操） （毎週木曜日）	体の動かし方を学び、自分の体について見つめなおす。運動を続けることで、肥満や筋力低下の予防を目指す。ストレッチで疲労回復や心身の安定を図る。新年会で発表の場を設け、意欲的に取り組める内容とした。	講師による軽運動プログラムに沿って実施。 感染症対策として、参加人数を減らして実施。

(7) ワークショッププログラム（毎週木曜日）

専門講師による表現活動を行った。館内、やさい食堂七福での作品展示を行った。4月から5月の緊急事態宣言期間は休止した。

(8) 作業活動と工賃

4月から5月にかけて緊急事態宣言中のレストランの休業、利用者通所自粛による給食費収入の減少などがあり、売り上げに大きな影響があった。受注事業では、土産物・贈答用の菓子の生産が減少、イベント中止などによりDM（ダイレクトメール）作業も一時受注量が減少した。食品事業では、レストランの席数を1/2にし、感染対策を行った上で営業した。また、弁当の販売を開始した。商店会の「むチューde デリバリー」（令和3年2月9日～3月6日実施、注文数120個、総売上¥90,000）や市主催の「地域くらし応援券」（令和3年2月22日～3月31日実施、利用券146,500円分（500円券×293枚））を活用し、売り上げに効果が見られた。そういった取り組みの結果、下半期には全体の売り上げ状況に回復の兆しが見られた。

売上実績表

（単位：千円）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R1合計	3,529	3,341	3,852	3,987	3,135	3,438	3,725	3,420	3,539	3,051	3,024	3,134	41,175
R2合計	2,001	1,134	3,376	3,408	2,889	3,427	3,685	3,752	3,755	2,688	2,974	3,769	36,858

工賃支給実績（多機能合計の月平均）は、令和元年度13,253円に対し10,890円となった。就業時間短縮の影響で支給額が減少した。今年度より工賃評価時期を法人就労系事業所共通の10月に変更した。

(9) クラブ活動

感染症拡大により中止とした。

(10) 年間行事

①バスハイク、一泊旅行は、感染症拡大のため中止とした。

②新年会

1月6日（月）

感染対策を行った上で少人数グループ毎に実施。新成人・勤続者のお祝い、夢の扉発表（VTR）、書初め、会食等

参加者：利用者 70名、職員 21名、計 91名（ボランティア等の参加なし）

(11) 自治会

今年度は活動を休止し、役員選挙を行わず前年度役員が継続する形となった。6名からなる役員会を中心に本人活動の支援を行った。

3 その他の活動

(1) 保護者連絡会

例年5月、9月、3月の年3回を原則として施設より利用者家族に向けた情報伝達の間を設けているが、今年度は感染拡大防止のため中止し、書面での報告とした。

(2) 広報紙

「むさしのだより」を毎月最終月曜日を基準に、利用者向けに発行した。

(3) 保健衛生

看護師による日常看護としての利用者の健康管理と嘱託医（内科・精神科）による健康相談を毎月5回、健康診断、歯科検診（希望者のみ）を実施した。また、感染症対策、緊急医療対応シミュレーション研修を行った。

(4) 給食

法人の栄養士が献立を作成し、就労支援事業として職員と利用者で調理し、給食を提供している。主食と主菜の選択食をそれぞれ毎月1回行った。

(5) 総合防災訓練

感染拡大防止の観点から、消防（避難）訓練などは中止した。月1回ヘルメットを速やかにかぶる練習として「ヘルメット訓練」を実施した。

(6) 地域交流

①イベントへの出店（やさい食堂 七福）は中止した。

②市立大野田小学校への学習協力

9月25日（金）授業講師「みんな一緒に」4年生の「総合的な学習の時間」

※体験授業（見学・作業体験）は中止

③成蹊大学工学部システムデザイン科との福学協働の取り組み

「プロジェクト実習」への協力（オンライン授業・研究へのフィードバック等）

④やさい食堂七福と武蔵野市健康づくり事業団との連携

例年実施している事業団主催の講座やセミナーは中止となった。

(7) 職場内研修・法人研修

職場内研修…りぷるとの合同研修（権利擁護研修）を実施

(8) 施設外研修

外部のオンライン研修等へ職員を派遣し、参加者は職員に研修内容を講義し共有

を図った。

4 苦情受付状況

苦情は、一般 3 件、利用者 1 件。年間を通して 4 件。一般の苦情は、利用者の地域生活に関するもので、支援により解決している。利用者に関する苦情については、対応継続中

5 第三者評価

平成 30 年度、第三者評価を受審している。評価機関：一般社団法人 Riccolabo.
(3 年毎の受審、次は令和 3 年度受審予定)

6 年間実績一覧

多機能型・定員	80 名	ボランティア活動延人数	0 名
		見学者数 (一般見学)	5 名
利用者延数 (年間)	15,451 名	見学者数 (利用に向けての見学)	22 名
サービス提供日数 (年間)	241 日	実習生 (一般・学生等) 延人数	0 名
1 日平均	69 名	事前の体験利用者数	41 名
		苦情件数	4 件
		事故件数	2 件

令和2年度 指定障害福祉サービス事業
「ワークステージりぷる」(就労継続B型)事業報告

1 事業運営について

新型コロナウイルス感染症への対応のため、感染予防と活動制限を年度通して行った。特に4、5月は、利用時間を半日単位として混雑率を50%に抑えた。その後も基本利用時間を朝夕30分ずつ短くした。総利用時間は、自主的な利用自粛もあり前年対比69%と大幅に減少した。

緊急事態宣言は、作業市場にも大きな影響を与え、第1四半期は大幅な受注減となり、提供作業がない場合には、密を避けて手洗い動画等による学習活動等を行った。第2四半期以降は、昨年度の新規開拓も含め受注は回復傾向にあったが再度の緊急事態宣言により第4四半期は、伸び悩んだ。

感染防止として、手洗いや消毒、換気、施設内環境の整備と備蓄を行った。また、利用者が主体的に取り組んでいた朝の会活動などは、感染防止のため教室型で職員が行うようにした。

宿泊旅行や一日外出などは、活動自粛した。また、忘年会や新年と成人を祝う会は、会食でなく、お茶とお菓子など小規模な催しとした。利用者の抱負などは録画して、それを鑑賞する内容に変更した。

他市の作業所から職員研修として3名を受け入れた。

2 利用者の状況と活動全般

(1) 利用者数

令和3年3月31日現在 (単位人)

事業別(定員)	前年度末	入所	退所	今年度末
就労継続B型(20)	22	0	0	22

(2) 年齢別利用者数 (平均年齢 35.6 歳)

令和3年3月31日現在 (単位人)

	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	合計
男性	0	5	3	5	1	14
女子	0	2	2	3	1	8
合計	0	7	5	8	2	22

(3) 障害・度数別利用者数

令和2年3月31日現在 (単位人)

		愛の手帳					合計
		1度	2度	3度	4度	なし	
身障手帳	1級	—	—	—	—	—	0
	2級	—	—	—	—	—	0
	3級	—	—	—	1	—	1
	4級以下	—	—	—	—	—	0
	なし	—	5	8	8	—	21
	合計	0	5	8	9	0	22

(4) 障害者自立支援法による障害程度区分の数

未確定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
3	1	6	10	2	0	0	22

(5) 活動時間

4月の緊急事態宣言を受け、感染予防のため通勤時の混雑緩和と施設内混雑50%以下、施設内消毒時間の確保のため、利用時間を10:00-12:30、13:30-16:00の2部制とした。6月以降は、9:30-16:30の利用時間とし、自主的な利用自粛による半日利用や時間短縮を可能とした。

ご利用者やご家族の選択により、利用自粛の間の在宅サービスを提供した。

(6) 作業活動

新型コロナウイルス感染症による経済的影響を前年との受注金額の比較で見ると、第1四半期53%、第2四半期84%、第3四半期101%、第4四半期79%、年度計79%となった。4月と1月の緊急事態宣言による経済停滞による受注減と同業他作業所の利用中止による行き場のなくなった小ロット作業の受注増加が特徴的な1年であった。また、昨年度からの新規開拓の結果が表れ始めた。売上の65%を占める大口顧客以外の4社で32%となり今回の急激な受注減の負荷軽減に役立った。12月期以降は、受注件数が増加し、法人内作業所への外注化による生産調整を行った。その結果、外注比率は4%から12%、440千円の増加となり、他の作業所の生産調整にも役立てることもできた。

感染予防のために、施設内環境を見直した。教室型の利用者固定テーブル配置やパーティション、消毒スプレイの設置、常時換気、作業前の手指消毒、朝夕の職員による消毒清掃作業を実施した。

作業提供方法も、ご利用者の理解を高めるために作業の内容や担当する作業を朝の会でお伝えするなど、作業による満足度を高める工夫を行った。

売上実績表（単位：千円）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
30年度	678	760	945	585	844	474	789	650	704	742	504	566	8,241
令元年度	681	622	608	567	488	600	564	689	673	726	812	763	7,797
令2年度	400	251	367	364	496	521	517	576	858	517	534	761	6,162

感染予防のための利用時間の削減や自主的な利用自粛による年間稼働時間は69%と減少した結果、月平均工賃は14,785円となった。昨年度と比べ10,445円、59%と大幅に低下した。時給換算では平均195円であり、昨年度と比べ21円90%の減少となっている。支給工賃の総額が減少したのは、作業時間の減少が主であり、時給の減少は昨年度の法人内事業所の支給工賃規定を統一し支給方法を変更したためである。

(7) 生活支援

① 当番制の担当業務等を利用者へ提供は、感染防止のため中止とした。

・朝のミーティング後、担当する利用者が前に出て「体操」と「挨拶・報告・連絡・相談」の掛け声をリードし、相対しての全員で発声練習を行っていたが、教室型の施設内で職員が司会して朝の会を行い、体操は壁に体操の動画を流し1方向へ向かっての体操とした。

・清掃…事業所内、建物周辺の清掃をグループで行っていたが、朝夕職員が行った。

・給食…給食の食数計算、食具の準備と配膳を利用者が行っていたが、職員が行った。

・取引先訪問…納品、資材の引き取りに利用者が同行していたが、取引先からの要請により取りやめている。

② 昼食の自由選択

・昨年度に引き続き、毎週金曜日の昼食を自由選択の日とし、給食以外の食事の注文、購入を職員が支援していたが、感染防止のため中止とした。

③ 軽食づくりなど社会的体験活動

・利用者の生活力向上と大型連休中に生じる家族の負担軽減を目的に特別活動を行ったが、感染防止のため活動を中止した。

(8) 年間行事

一日外出や宿泊活動は、感染症予防ため中止とした。

① 忘年会 12月28日(月) りぷるにて、お茶と七福のケーキ。利用者の挨拶を録画した動画鑑賞など。

② 新年と成人を祝う会 1月4日(月) りぷるにて、お茶とお菓子、新年の抱負と成人の同僚へのお祝いの言葉などを録画した動画鑑賞など。

3 その他の活動

(1) 広報紙

「りぷる通信」は発行を中止し、適時に感染予防やお知らせなどを発行した。

(2) 保健衛生

利用者の健康診断(年2回)、歯科検診(武蔵野市在住者のみ)を行った。

(3) 給食

武蔵野福祉作業所で調理した給食をランチケースに盛り付け、運搬し毎日提供。緊急事態宣言下の半日利用の方は提供しなかった。

(4) 総合防災訓練

感染防止のため、北町ほっと館との合同机上訓練のみ行った。

4 職員研修

(1) Zoomによる、東京都主催の「ICT実践研修」、びーと主催の「アンガーマネジメント研修」に職員が参加した。

(2) 就労支援会議研修は、再度の緊急事態宣言により中止となった。

(3) 法人内の三年目研修に職員が参加した。

5 サービス提供記録

前日のサービス提供内容について、翌朝のミーティング後、利用者本人が確認、押印する方式を継続した。

6 ケース検討

従来のケース記録システムが、パソコンの更新に伴い利用できなくなるため、新たなクラウド型のシステムに更新した。

コロナ禍での家庭環境変化や利用時間の減少などによりご利用者は年間を通して落ち着いて過ごしており、特別な個別のケース会議は、開かなかった。日常的には、毎朝ケース会議を行い、振り返りなどを行った。

7 年間実績一覧

就労継続支援B型・定員	20名	見学者数(一般見学)	1名
		見学者数(利用に向けての見学)	3名
利用者延数(年間)	4,868名	実習生(一般・学生等)延人数	3名
サービス提供日数(年間)	243日	事前の体験利用者数	1名
1日平均	20名	苦情件数	0件
		事故件数	0件

令和2年度 みどりのこども館 児童発達支援事業
「武蔵野市児童発達支援センターみどりのこども館通園部ウイズ」 事業報告

1 施設の運営について

当事業所は武蔵野市より委託を受けている指定管理施設で、令和2年度より『相談部ハビット』との機能を合わせて、児童発達支援センター(児童福祉法)として運営している。

児童の通所部門『通園部ウイズ』の対象児は3～5歳児で1日の定員は20名である。

この事業の他に、学齢期(小学1年生～高校3年生)の肢体不自由児を対象とした放課後事業「つばさ」(月2回、夏休みは週2回/1回定員5名)を実施してきたが、『放課後等デイサービスパレット』の開所や地域のニーズの充足に伴い11月末で事業を終了した。

今年度は子どもの登録が年間で22名(年度途中に入退園あり)、平均利用数が16.5/日となり稼働率が82.4%であった。昨年度より、1名当たりの児に対する利用率が高く(欠席児が少ない)、コロナ下ではあったが、全体の稼働率は上がっている。4～6月の緊急事態宣言時には一時利用率が下がったが、限定公開での動画提供や電話相談・教材提供などの在宅向け療育を提供し、利用児や保護者からも好評であった。(※4～6月までの3ヶ月の平均稼働率64.3%、7～3月までの9ヶ月の平均稼働率91.7%)

昨年度から定員を20名に増やし、外部委託した送迎(マイクロバス)や、センター化の特区申請によるカウンターキッチンの造設で給食提供は引き続き円滑に進められた。しかし、活動室などの空間は定員10名のときと同じであるため、感染症対策をしながら、活動室等で子どもたちが過ごす物的環境面を整えることに昨年度にも増して苦慮した1年であった。半数ずつの児童での部屋分けによるグループ保育を試行しながら、次年度に向けた本格的なクラス編成を検討していった。また、行事は中止や内容の縮小をしたものがほとんどである。開催した行事も参加者の人数を制限したり、時間を午前午後に分けたりしての実施となった。

その他の通常活動での感染症対策としては、定時換気、共用部の定期消毒、玩具の随時消毒、歯磨き指導の中止、給食時の利用児同士の距離確保などを実施した。

2 通園を利用した子どもの概況 年間を通した状況(単位人)

年齢別利用児数(令和3年3月31日)

	3歳児 (年少)	4歳児 (年中)	5歳児 (年長)	合計
男児	7	3	4	14
女児	2	2	4	8
合計	9	5	8	22

障害程度別利用児数

		愛の手帳					
		1度	2度	3度	4度	等級不明 (申請中も 含む)	なし
身 障 手 帳	1級						1
	2級		1				1
	3級			1	2		
	4級以下						
	等級不明 (申請中も 含む)						
	なし		1	5			10
てんかん1名、染色体疾患1名、遺伝子疾患2名、難聴1名							

3 療育内容(通園関係)

(1)活動時間

通常の活動は年少から年長を通して、9:30～14:00(基本時間/送迎により前後あり)で実施した。年長・年中児対象の毎月1回の延長保育は感染症流行の状況を鑑みて、1.2.3月のみの実施となった。

(2)活動内容

個別支援計画に沿って、遊びや基本的生活動作の練習などからの発達支援を行った。設定活動では制作・感触あそび・運動・クッキング・誕生会・季節行事などを実施している。

(3)音楽療法

引き続き講師を導入して実施した。通園児のニーズに合わせて、目的別小集団に分けて行なった。その結果一人一人のきめ細かい対応が行えた。

(4)相談部ハビットとの連携

①ハビットPT・OT連携

運動・感覚の専門職が保育活動に入ることにより、通園部ウィズのスタッフが様々な視点で児の育ちをとらえるために、定期的に相談部ハビットのPT(理学療法士)・OT(作業療法士)が活動に入り、保育における運動や生活動作の場面等において、情報共有や意見交換をしている。

PT/年5回、OT/年9回 ※今年度は7月からの開始のため、PT/年4回、OT/年7回

ハビットとウィズ間の個人情報の共有に関しては、保護者の希望(同意)を伺っている。

②ケース検討会(月1回程度)

事例検討等で互いの事業内容の共通理解を深める。

(5)食事

給食は総合センターで調理し、館に搬送し配膳(盛り付け)をしている。それぞれの児に応じた盛り付けや食具の工夫をして、食事の仕方や偏食の改善に配慮している。また、摂食や嚥下の難しい児には特別食で対応している。

(6)送迎

在籍児全員が送迎を利用している。武州交通への外部委託によるマイクロバスでの送迎となっている。
※運転のみ。添乗はウィズ職員が実施。

(7)保護者支援

・保護者会はソーシャルディスタンスの観点から、こども館内ではなく、武蔵野総合体育館/大会議室・視聴覚室等を借りて実施した。個人面談は各3回開催したが、家庭訪問は中止とした。

親同士の関係作りや経験交流のために、親の会の集いを年間8回設定していたが、今年度は子ども館内での実施が難しかったため中止としている。保護者会後の会場で、自由懇談の場を提供した。保護者同士の交流の機会は重要であり、会場設定も含めて開催方法の検討が次年度の課題となっている。

・土日の行事として、家族参観日は中止し、12月のお楽しみ会は、午前午後に分けての開催となった。

・平日の保護者参加行事である9月の運動会はオンライン配信をし、1月のもちつきは中止となった。

・家族向け広報紙「ういずきっず」を年2回と卒業文集「えがお」を発行した。

・1月19日に武蔵野総合体育館・大会議室にて、保護者向けアンガーマネジメント講座を開催した。

(みどりのこども館主催・千川おひさま幼児教室の保護者も参加)通園部ウイズの保護者・入所施設職員7名が参加した。

4 行事等(通園関係)

行事名	月日	行 事 内 容
入園式	4/6	入園式・保護者会なし(書面のみの配布)
保育園・幼稚園との交流 (手紙交換のみ)	直接交流は 中止	千川保育園、武蔵野中央幼稚園、 みやま幼稚園、北町保育園、吉祥寺保育園
親子遠足	雨天中止	(10月23日 小金井公園を予定)
家族参観日	6月分中止 12/19AM/PM	(保育参観・父親懇談会) お楽しみ会
季節行事	中止 9/9.10	(あそぼうデー、おもちつき) 運動会(2日間2グループに分けて実施、保護者への動画配信)
	2/24	ミニコンサート(オンライン視聴)
誕生会		該当月の誕生祝い(保護者参加なし)
園外保育	中止	(乗り物体験 など)
プール		屋外プール(7月～8月)
卒園式・お別れ会	3/26	卒園式(就学5人、転園1人)
避難訓練		こども館全体訓練2回 災害時伝言ダイヤル訓練2期間
保護者会		年に3回実施(7月、12月、3月)
個別面談		年に3回実施(6～8月、11～12月、2～3月)
入園説明会	3/6	事業説明・利用契約・インテークなどを個別に行う

5 「つばさ」の概況 令和3年3月31日現在

	登録人数	実施回数	参加延べ人数
つばさ	9人	12回	41人

武蔵野市内在住で小学校1年生から高校3年生までの肢体不自由児を対象に放課後や夏休みの余暇支援を行う。(月2回、夏休みは週2回/1回定員5名)

コロナウイルス感染症流行に伴い、4～7月までは実施をしていない。

7月1日に保護者会(武蔵野総合体育館・視聴覚室)を開催し、事業終了を登録者に説明した。

11月25日をもって、事業を終了した。

6 その他の事業

(1) 同窓会(ウイズ卒園児、在園の経験のある小1～小3までの親子)

コロナウイルス感染拡大防止のため、今年度は中止する。

(2) ボランティア・実習生(インターンシップ生)

ボランティアの受け入れはなし。登録ボランティアとの手紙での交流を実施した。

保育実習生1名(帝京平成大学)、保育インターンシップ1名(武蔵野大学)

(3) 保健・衛生

歯科健診を年1回(在園児1人につき1回/ブラッシング指導なし)、尿検査、耳鼻科健診、内科健診を年各1回実施した。

また、職員向けに歯科巡回相談が年に1回あった。(多摩口腔リハビリ指導医が来所した。)

(4) 避難訓練

館全体で2回、火災時の避難訓練を実施した。また災害時の情報伝達訓練として災害時伝言ダイヤルの利用訓練を2期間実施した。

(5) 職員研修:

① 内部研修(事業所のみ・法人研修を除く)

音楽療法まとめ/臨床心理士によるスーパーバイズフィードバック

② 外部研修

小金井特別支援学校/学校公開、武蔵野東幼稚園支援プログラム見学

7 他機関との連携・協力

- ・教育委員会:通園児の実態把握表の作成・提出、個別行動観察の受け入れ
- ・他療育機関:並行利用児の幼稚園訪問・電話連絡、児発事業者連絡会への参加(オンライン)
- ・子ども家庭支援センター:ケースについての連絡・協力
- ・特別支援学校:卒園児に係るカンファレンス、学校からの訪問受け入れ等
- ・図書館読み聞かせの会事業への協力
- ・きょうだい交流会への参加

8 苦情受付状況等

- ・苦情件数 0件

【令和2年度実績】*見学者数(一般見学)はみどりのこども館全体の見学者を含む

定員	20人	ボランティア活動延人数	0人
登録利用者数(年間)	22人	見学者数(一般・行政・事業所関係者見学)	8人
利用者延数	3,905人	見学者数(利用に向けての見学)	(保護者等)20人 (児)12人
利用延日数	237日	実習生(一般・学生等)数	2人
1日平均通園児数	16.5人	事前の体験利用者数(通園児不在時)	12人
		アクシデント・インシデント件数	162件
		車両トラブル件数	1件

令和2年度 みどりのこども館 地域療育推進事業
「武蔵野市児童発達支援センターみどりのこども館相談部 ハビット」事業報告

1 事業運営について

(令和2年度の状況)

緊急事態宣言発令下で事業継続したものの、4月は来所による相談は自粛を要請し、5月から順次来所相談を再開。初回相談件数は用意した枠22件/月に対し、4月は2件・5月は5件、継続相談件数も前年度同月比3割～4割となった。5月末まで学校・幼稚園が臨時休校・休園を実施しており、所属先から集団生活上の課題について指摘される機会がなかったこと・健康課の健診事業やフォローアップグループが中止となったこと・関係機関(病院、保育園)からの案内が少なかったことが影響していると推測される。初回相談・継続相談とも6月の緊急事態宣言解除後、徐々に件数が回復したものの、前年度同月比を上回ったのは9・10・12・1・3月の5ヶ月で、他の月は前年度同月比を割り込んだ。そのため、全体の相談件数は前年の9割となったものの、電話相談は前年比約120%と増加しており、来所以外の相談形態へのニーズが増加している。全体の相談件数減及び市から保健師1名が派遣されたことに伴って職員数が増加したため、初回相談待機日数が平成31年度と比較して約4日減少し、年間平均で約16日となっている。計画相談支援の新規作成数は前年比8割と減少しているが、利用実人数は引き続き増加している。福祉サービスを継続して利用し続けるケースに加え、就学で一旦福祉サービス利用をしなくなったケースが放課後等デイサービス利用を再開したり、学童保育または障害児学童を利用していたケースが、中学校への進学にあたり放課後等デイサービスの利用に切り替わったため計画相談支援を再開するなどしていることが影響している。

12月から桜堤ケアハウス内でサテライトオフィスが始動(相談部ハビットサテライト)。計画相談を主として実施。事業所が2ヶ所となったため、双方でデータ管理が必要となったことと業務効率化を目指して計画相談ソフトを導入し、3月からデータ移行を開始。

7月からウィズへ理学療法士、作業療法士が定期的に訪問し、身体・運動機能評価に基づいた環境設定、介助、関わり方などを提案し、集団療育にどのように組み込めるか、保護者と児の発達課題についてのどのように共有するかについて、ウィズスタッフとの協働を開始した。

親子グループは、今年度から子育て支援へ特化し実施。登録者数は大きな変動がないものの、出席率は5割を切っている。登録者がすべて児童発達支援事業を利用しており、利用曜日の調整に困難がある。

土曜来所相談件数は前年度に引き続き減少している。感染症拡大により在宅勤務の方が多くなり、平日の来所が可能な家庭が増えたことが大きい。

健康課フォロークラスへ職員2名を派遣。参加児90名のうち、ハビット初回相談へ直接つながった児はなく、フォロークラス利用後の発達健診を経て10名がハビット来所となった。

(今後の方向性)

- ・引き続き、子育て支援・発達支援に関わる機関の連携・ネットワーク化を担える人材の育成に努める。
- ・相談部ハビットサテライトを計画相談支援の中核とし、こども館では療育相談の更なる充実、強化を図る。
- ・健康課フォロークラスに参加し、母子保健や子育て支援事業との更なる連携強化を図る。
- ・感染対策や来所負担軽減のため、継続相談のバリエーションとして、対象ケースを限定した上で、オンライン相談・電話相談を実施。

2 事業内容

開館日 月～金 月1回土曜日に相談を実施

受付時間 9:00～17:00

(1)療育相談事業

- ・対象 0～18歳までの子どもとその保護者
- ・スタッフ 社会福祉士・理学療法士・作業療法士・公認心理師(臨床心理士)・保育士
相談員(非常勤)・心理相談員(非常勤)・言語聴覚士(非常勤)・医師(非常勤)・事務員(非常勤)
- ・内容 心身の発達に心配のある子どもに対する家庭での支援・生活指導・関係機関との調整、補装具や住環境の調整など、専門医師(整形外科医・児童精神医・小児科医)による家庭療育に関する相談。

(2)親子通園事業

- ・対象 発達障害等の未就学児とその保護者
- ・スタッフ 保育士等
- ・内容 親子の通園を基本として、子どもの年齢や発達課題に合わせたクラスで数人(6名程度)のグループ活動をする。対象児は、下記の通りで、医療や療育には出生後比較的早期から繋がっている状況である一方、いわゆる子育て情報をどこからも得られない現状を鑑み、子育て支援へ特化し実施する。
- ・実施クラス(1クラス)
たんぽぽクラス:0～2歳児。先天性障害・周産期トラブルにより発達に障害のある児、もしくは主に運動発達に遅れや障害のある児。

(3)施設訪問事業

- ・内容 保育所・幼稚園・子育て支援施設・学校など日中活動を行う施設スタッフへの支援。訪問依頼のある施設に訪問。療育的視点から保育士、教員への必要な助言を行う。
- ・スタッフ 社会福祉士・理学療法士・作業療法士・公認心理師(臨床心理士)
- ・訪問先
 - ・市内及び近隣市の保育園、幼稚園
 - ・市内公立小中学校の特別支援学級
 - ・通園部ウイズ
 - ・その他

(4)計画相談支援

- ・対象 0～18歳までの子どもとその保護者
- ・スタッフ 社会福祉士・理学療法士・作業療法士・公認心理師(臨床心理士)・保育士
相談員(非常勤)・心理相談員(非常勤)・事務員(非常勤)
- ・内容 法内障害福祉・児童通所サービス等の利用に関するプラン作成、モニタリング等。

(5)その他

- ・発達健康診査(健康課事業)に社会福祉士・理学療法士を派遣
- ・健康課フォロークラスにコーディネーターとして1名派遣。
- ・研修事業…①市内保育所の保育士を対象に実施(全9回実施、医師以外の専門職)
 - 「ハビット地域支援講習会 発達基礎コース」は感染症拡大により中止
 - ②その他依頼に応じて実施
 - ・桜堤児童館1回(公認心理士)
 - ・武蔵野市立第一中学校1回(公認心理士)
- ・ハビット×ぐるりん(年3回)…作業療法士ミニ講座と相談。感染症拡大により、理学療法士・公認心理士の回は中止。

- ・きょうだい交流会(年2回)…障害児をきょうだいに持つ子どもの交流会実施。感染症拡大により、1回は「たより」発行、1回はオンライン開催。
- ・保護者会…就学、児童発達支援事業利用に向け、先輩保護者から体験談を聞く会。各年1回開催予定だが、R2年度は感染症拡大により開催せず。過去年度の開催内容まとめ書面を作成し希望者に送付。
- ・特別支援教育事業(随時)…特別な支援が必要な児が在籍する市内幼稚園からの武蔵野市補助金申請に対する園訪問及び意見書作成。
- ・地域型保育事業に係る障害児加算意見書作成(随時)…子ども育成課からの依頼により、特別な支援が必要な児が在籍する市内地域型保育事業施設へ訪問及び意見書作成。

3 苦情受付状況

- ・件数 1件(相談の進め方に関する苦情)

【令和2年度 実績数】ハビット

療育相談	新規相談	273件	親子通園 クラス名	グループ数	登録者数	実施回数	延参加組数 (見学者含)
	受理面接(初回面接)	183件	たんぽぽ	1	4	9	21
	継続相談	1903件 (うちサテライト47件)	合計	1	4	9	21
施設訪問	保育園・幼稚園	121件					
	学校	133件					
	その他(ウイズ)	94件					
発達健診	15回実施	173件					
医療相談	16回実施	44件	計画相談・モニタリングに関する相談			1272件(うちサテライト273件)	
	計画相談 計画作成	89件	モニタリング作成			1087件	

令和2年度 みどりのこども館 地域開放型事業
「おもちゃのぐるりん」事業報告

1 事業運営について

武蔵野市内在住の親子が自由に来館し、遊べる場を提供している。子どもの遊び場であり、保護者の交流の場となっている。常駐の職員がいることで気軽に子育ての相談ができ、また必要に応じて児童発達支援センター相談部ハビットと連携し、療育相談につなげている。

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、6月末まで休館となった。休館中は、SNS（ツイッター）にて手作りおもちゃ紹介などの情報提供を実施し、6月16日以降は貸出し事業も一部拡大して再開した。特に貸出し事業は、コロナ禍において自宅で過ごす時間が増えたことにより利用が急増し、貸出しおもちゃの点数を増やすなどした。

おもちゃ病院・手作りおもちゃの会・ワークショップやおもちゃの貸出しなどの対面での事業は、中止もしくは実施方法を変更して実施した。畑での種まきや収穫体験は、感染拡大が落ち着いた11月に実施した。

コミセン親子ひろばや保育園で行われているあかちゃんのひろばにおもちゃを20点程度持参する出張ぐるりんについても、8月までは中止し、9月以降は月1回の頻度で実施した。

「手作りファースト・トイ」(妊娠6ヵ月の方から生後5ヵ月までの子どもと保護者対象)は、休館や外出自粛要請などがあり、従来の対象月齢の間に参加できないことが予想されたため、今年度に限り、対象を生後12ヵ月に延長し、7～10月はオンライン、11～12月は対面(5組限定でひろば貸切)にて毎月開催した。オンラインでの実施はコロナ禍に出産し、外出を控えて地域との関わりが希薄な親子の参加が多く、ちょっとした子育ての相談や、ひろばへ来館のきっかけとなった。対面での実施は人気のおもちゃが作れることや、同じくらいの月齢のお子さんと知り合うことができ、参加者から好評であった。

ランチタイムは当面の間、利用中止とした。

令和元年12月より初利用説明会を月に1回の頻度で実施していたが、再開館後はオンラインにて実施した。しかし、申し込みが少なかったことや、初来館が増えていたこともあり、9月で休止した。

(この事業の運営は、武蔵野市子ども協会に委託している)

2 事業内容

- ・事業 子どもと保護者がおもちゃで自由に楽しく遊べる場の提供
- ・対象者 市内在住の未就学児と保護者
- ・利用料 無料
- ・開館日 火～土の週5日間(日・月・祝日は休み)
- ・開館時間 10:00～16:00 ランチタイム 12:00～13:30
※今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、入替制(10:00～12:00、14:00～16:00)各定員5組とした。また、ランチタイムも同様の理由にて当面の間休止になった。
- ・スタッフ 子育て支援員 正規職員2名 嘱託職員1名 アルバイト4名
※支援員は保育士・幼稚園教諭いずれかの免許取得者、アルバイトスタッフは無資格者有
- ・おもちゃの在庫数 約300種類あり季節ごとのテーマに合わせて常時70～80個を用意している。
- ・その他の実施事業
手作りおもちゃの会・季節の手作りおもちゃや工作の催し・貸出し事業・おもちゃ病院(お

3 活動実績

【令和2年度 実績数】

- ・開館日数 184日(前年度 226日)
- ・利用児総数 2,356人(前年度 5,909人)
- ・平均利用児童数 1日: 12.8人(前年度 26.1人)
- ・ひろば相談(随時対応) 90件

年齢別	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	その他	合計
利用児数	367	581	403	369	196	352	70	18	2,356

*その他は小学生の兄弟姉妹等

4 年間実施行事

手作りおもちゃの会 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、工作キット配布へ変更							
4月中止	中止	7月12日間	93人	10月14日間	96人	1月12日間	111人
5月中止	中止	8月13日間	110人	11月11日間	69人	2月10日間	111人
6月7日間	44人	9月12日間	76人	12月12日間	106人	3月12日間	101人

ハビット×ぐるりん(ハビット職員によるミニ講座と座談会)定員5組(ひろば貸切にて実施)		
1月27日	ハサミや鉛筆、スプーンやお箸が上手に使えるようになるには?(作業療法士)	5人

みどりのこども館看護師と話そう(子育てに関するミニ講座と座談会)	
※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止	

その他のイベント					
4月	※新型コロナウイルス感染拡大防止のため休館		10月	オンラインで!ファースト・トイ	2人
5月	※新型コロナウイルス感染拡大防止のため休館		11月	手作りファースト・トイ種まき	4人 18人
6月	I♥family! ウォールポケット ※工作キット配布	42人	12月	手作りファースト・トイ	5人
7月	オンラインで!ファースト・トイ	4人	1月	—	—
8月	オンラインで!ファースト・トイ	2人	2月	—	—
9月	敬老の日のプレゼント工作キット配布 オンラインで!ファースト・トイ	57人 2人	3月	祝・卒園★リモータで壁面を飾ろう	7人

- ・おもちゃ病院 (原則第4土曜日に開催) 実施回数:8回(4~6・12月なし)修理おもちゃ数:134件
おもちゃ病院協会のドクター養成講座に参加したおもちゃドクター6名が、壊れたおもちゃを無償で修理(材料費のみ個人負担)。個人・施設からの修理依頼を受付。
※『臨時おもちゃ病院』として感染予防対策を講じた形で実施した。
- ・おはなしひろば (毎月1回)※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
- ・まっとうさんの絵本ライブ (隔月1回)※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
- ・初めまして♪ぐるりん (毎月1回) 実施回数:3回 参加人数:3人 ※オンラインにて実施した。
初来館者対象のぐるりんの紹介及び利用説明会。
- ・おもちゃの貸出し ※臨時おもちゃの貸出しとして実施(従来は毎週水曜日・毎月第1土曜日)
(毎週火・木・土曜日) 貸出し数:1838件 登録者 245人
子ども一人につきぐるりんの貸出しおもちゃ約140点の中から1点、1週間の貸出し
- ・出張ぐるりん (基本月1回開催) 実施回数:8回(うち2回はオンラインで実施) 参加人数:58人

- らびっとひろば（年7回開催） 参加人数:18人
ハビット利用児を対象とした親子ひろばだが、令和 2 年度よりグループ活動時からスタッフが入る形となり、グループと連携させた形で実施。
- みどりのこども館あそぼうデー ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
- ぐるりんだよりの発行（従来は偶数月に 1,000 部発行）新型コロナウイルス感染状況によって、開館状況などに変更が出るため、毎月 800 部発行。
保育園等市内施設に設置:配布箇所 72 施設
- ホームページやツイッターによる情報提供 ホームページ随時更新
令和2年度 ツイート数:285 ツイート フォロワー:395 人(令和3年3月末現在)

令和2年度 居住支援ユニットリエゾン 事業報告

【居住支援・事業報告】

- I 「やはたハウス」 (共同生活援助・共同生活介護)
- II 「グルーホームRENGA」 (重度身体障害者グループホーム)

【共通事項・事業報告】

1 事業運営について

今年度は、居住支援事業の再編成と機能強化を軸に、ユニットごとの入居者層と支援内容の違いを明確にし、性格付けを行うことと、新たにグループホームかしの木を開設に向けた準備室を立ち上げ、ユニット間での入居者の移動や新規入居者の募集し定員を10名増やした。また、再編成に伴い、ユニットの廃止(やはたハウス、グループホームRENGAを重度身体障害者グループホーム事業から制度変更し、障害者総合支援法へ制度変更)、事業名称などの変更もこれを機に合わせて行った。新規入居者については、新年度に入ってから順次各ユニットへ入居していただく予定である。

事業全体で大きな動きが生じたが、これまで通り入居者個人の主体性を尊重し、多様な暮らしのスタイルを活かした形での支援は、変わらず継続したが、昨今の新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、これまでの生活様式では立ち行かない状況が発生した。緊急事態宣言が発令されたタイミングで利用の自粛を依頼したり、他の地域生活支援サービスの利用に制限が生じたりと、本人を取り巻く状況が一変した。

全てのユニットが共同生活援助の法内となり、グループホーム4か所、7ユニット、定員は53名となった。各入居者(新規入居者の方も含めて)は、それぞれ日中支援事業所の障害者福祉サービス(生活介護、就労支援B型)、特例子会社や一般企業へ勤務、介護保険のデイサービス等を利用し、途切れることのない一体的に生活支援を行っている。

今後の課題は、入居者の加齢問題、家族の高齢化による介護力の低下による実家へ帰宅できない、また、健康問題がより顕著に表れてくること、生活課題が増加していくことへの対応が挙げられる。各ユニットの365日営業化と人員配置、経営課題とも密接な部分があるため、次に取り組むべき大きな課題となっている。

2 利用者の状況(きたまちハウス1の体験枠は含めない)

(1) ユニットと入居状況 (令和3年3月31日現在 入居者合計 42名)

ユニット名	やはたハウス	せきまえハウス	きたまちハウス1	きたまちハウス2
入居者数	男性5名 (令和3年4月13日廃止)	男性0名(4月12日より男性用のグループホームとして再開予定)	男性7名	男性1名

ユニット名	くすの木1	くすの木2	かしの木(北館)	かしの木(南館)
入居者数	男性4名	男性9名	女性8名	女性9名

(2) 利用者数 (単位：人)

	前年度末	入所	退所	年度末
男	25	0	0	25
女	18	1	2	17
合計	43	1	2	42

(3) 年齢別利用者数 平均年齢 42.3歳

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	計
男	0	3	7	9	5	1	0	25
女	0	0	6	7	3	1	0	17
合計	0	3	13	16	8	2	0	42

(4) 障害程度別利用者数

愛の手帳		1度	2度	3度	4度	愛の手帳なし	計
身障手帳	1級	0	1	0	0	2	3
	2級	0	0	0	2	1	3
	3級	0	0	0	0	0	0
	4級以下	0	3	0	0	0	3
	身障手帳なし	0	15	10	8	0	33
計		0	19	10	10	3	42

(5) 障害者総合支援法による障害支援区分の数

区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
1	6	10	16	6	3	42

(6) 利用日

年末年始を含めて通年利用

(7) 通所方法

本人単独で通勤・通所している方 22名、通所施設の送迎を受けている方 18名

(8) 年間利用状況

延べ人数 年間合計 11,078人 (利用サービス日数 365日)

4月	5月	6月	7月	8月	9月
592	575	947	1,012	921	995
10月	11月	12月	1月	2月	3月
1,119	1,031	1,048	951	955	932

3 活動全般

- ・1年を通してホームで過ごせるように支援体制を組み、年末年始も含めて年間を通じて入居者の利用があった。
- ・新型コロナウイルス感染症により、緊急事態宣言が発令された期間に利用自粛を求めたが、個人のニーズを尊重し、各ユニットは閉鎖せず営業を継続した。

4 その他の活動

(1) 保健・食事

- ① 健康管理 : 健康診断 (1回)、歯科検診、インフルエンザワクチンの集団接種 (10月)
- ② 食 事 : 七福の配食サービスを利用するとともに、入居者の好みに応じた「お楽しみメニューの日」を設定し実施した。
- ③ 通 院 : 必要に応じて通院の付き添いを実施した。

(2) 家族関係

1年間の支援まとめの家族面談について、新型コロナウイルス感染症の感染リスクの軽減と居住支援事業の再編成に伴う繁忙が予想されたため、今年度は実施せず、紙面でのやりとりとアンケート集約を行った。また、状況に応じて個別に面談の要望があった場合のみ対応することとした。家族の健康状態などを考慮し、週末の緊急利用に多数応えた。

(3) 見学者

行政関係者、他法人等職員の受け入れは中止した。

(4) 制度利用の支援

居宅介護 (2人)、居宅介護 (移動) (1人)、訪問介護 (2人)、訪問看護 (4人)、訪問リハビリ (介護保険: 2人)、介護機器 (介護保険: 2人)、訪問診療 (3人)、訪問歯科 (1人) などの制度利用のために、関係の居宅ヘルパー事業者、訪問看護ステーションなど多くの事業者と連携して支援した。

(5) 地域との関わり

千川地域社協と桜野地域社協、関前地域社協の運営委員としてスタッフを派遣した。地域の活動は新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、中止・延期となり、実際の参加はなかった。

(6) 消防機器設備の定期点検の実施

各グループホームの自動火災報知設備と自動通報設備の定期点検 (年2回) を行った。

Ⅲ 「きたまちハウス」 (短期入所)

【チャレンジ自立生活事業】

1 事業運営について

1月にきたまちハウス1、きたまちハウス2のそれぞれ1室を活用し、チャレンジ自立生活事業の継続を計画していた。しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、感染防止と利用者の心身の安全確保、確実な居住支援事業の継続を優先とし、止む無く中止とした。

今回から、最大2か月間の体験機会を提供し、自立生活を営もうとするの意思形成を醸成する機会として捉えていたが、残念な結果となってしまった。

2 実績

今年度の実績は無し。

【リエゾン共通事項】 事業報告

1 職員研修

(1) 法人研修

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、実施が見送られたため、実績は無し。

(2) 外部研修

・東京都が主催する、「強度行動障害支援者養成研修」「グループホーム基礎研修」に参加した。

(3) 内部研修

・研究発表形式で2回実施した。各発表者がテーマを決め、それに基づく調査発表を行った。また、グループワークを中心とした議論の場も設定した。

・「グループホーム基礎研修」を実施。外部講師を招き非常勤スタッフを中心に受講した。

2 地域関連機関や団体との連携

地域の市民による活動である「千川地域社協」「桜野地域社協」「関前地域社協」にそれぞれ運営委員を派遣した。しかし、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により開催はされず、今年度の実績は無し。

3 防災訓練

拠点ごとに複数回 避難訓練を実施した。

4 その他

- ・きたまちハウスの入居者が、自宅へ帰宅された際に新型コロナウイルス感染症を発症。保健所から濃厚接触者はいないと判断されたが、その入居者が住まうユニットを一時閉鎖し、入居者とスタッフ全員にPCR検査を実施。全員の陰性が確認されたところで利用を再開した。
- ・高齢者施設及び障害者施設におけるPCR検査等費用助成事業を活用し、3月に全ユニットを対象としたPCR検査を実施した。

令和2年度 武蔵野市障害者福祉センター事業報告

1 施設の運営の概要

令和2年度開始当初は新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、録音室以外の施設貸出や講習会は軒並み中止とし、4月7日の緊急事態宣言以降は、生活リハビリサポートすばる（自立訓練、生活介護）では新規利用者の受け入れ中止や利用定員の制限などを行った。また職員に発熱者が出たため4月18日から4月26日までは完全休館とした。6月15日以降、利用定員の削減（50%）などを条件に施設貸出等は再開したが、計画していたポッチャ、コーラス、パーカッションなどの講習会とセンター講演会は実施しなかった。また、夜間の施設貸出（調理実習室は終日）は引き続き中止とした。

生活リハビリサポートすばるの自立訓練（機能訓練）では利用期間が決まっているためリハビリ検討会議において毎月の終了者は出るが、新規利用者を制限したため大幅に利用者数が減少した。一方、短時間減算で減収の見込みとしていた生活介護は、プログラムの変更等により午前中からの利用者が増えたため大幅な減収とはならなかった。

2 部門別報告

(1) 管理部門

①部屋貸し（地下会議室、調理実習室、印刷室、録音室、視聴覚室）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数(件)	13	16	29	47	33	42	37	28	36	34	33	43	391
延人数(人)	17	25	128	199	136	180	168	143	188	154	161	191	1,690

(感染症対策のため調理実習室の貸出は行わなかった)

②通所移送事業

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
延人数(人)	239	245	373	354	373	385	439	380	378	335	320	391	4,212

③障害者講習会（エアロビ、美術、太極拳、将棋、体操、椅子に座ってヨガ他）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
延人数(人)	0	0	13	28	28	55	50	69	56	34	24	14	371

④医療相談

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数(件)	10	13	13	17	23	12	14	8	14	15	10	28	177

⑤行事・地域活動等

- ・センター講演会 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
- ・障害者福祉センター運営協議会
 - 第1回 令和2年7月28日 令和元年度障害者福祉センター実績報告について
 - 第2回 令和3年3月29日 令和3年度事業計画について
- ・安全対策連絡会議 2回（9月28日、2月25日）
- ・避難訓練 2回（10月5日、3月3日）
- ・千川福祉祭り、千川地区社協、千川地域防災会、サロン千川、東部フェスティバル、あったかまつりなどの地域活動は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から軒並み中止となった。

⑥職員研修

- ・食中毒予防について
- ・感染症対策について
- ・虐待防止研修
- ・相談支援に関する研修
- ・接遇研修、アンガーマネジメント研修について
- ・その他

⑦その他の運営管理

- 苦情受付状況 4件
- 事故発生件数 4件

(2) 相談部門

①専門相談

ア) リハビリ相談（住宅改修、補装具等 電話、来所、訪問など）（延人数）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
専門相談	36	32	74	59	70	101	88	81	48	58	42	60	749

- ・心のバリアフリー啓発事業の講師派遣
- ・同行援護従事者研修の講師

イ) ゆいっと相談件数（高次脳機能障害）（延人数）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
相談（来所・電話・訪問）	122	70	107	107	75	117	165	112	99	81	95	104	1,254
上記内サロン	0	0	4	7	3	5	9	9	4	9	7	7	64

- ・高次脳機能障害関係機関連絡会 年1回 事務局機能としての活動
- ・高次脳機能障害関係機関連絡会運営委員会 年1回
- ・北多摩南部医療圏 高次脳機能障害者支援普及事業
- ・市区町村高次脳機能障害相談支援員連絡会

ウ) 視覚障害専門相談件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
相談(来所・電話・訪問)	28	33	75	57	41	69	92	76	54	66	73	65	729
内点字教室	0	0	8	14	7	13	13	13	8	12	13	12	113
内地域生活学習会	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	6	11
バリアフリー相談	0	4	7	8	2	6	2	2	8	3	6	6	54

- ・同行援護従事者研修(市)講師
- ・武蔵野市バリアフリー工事(点字ブロック等の敷設)への助言
- ・心のバリアフリー啓発事業への講師派遣

②特定計画相談

- ・実績

障害別	契約者数 (延べ)	計画作成数 (延べ)	モニタリング実施数 (延べ)*
視覚	51	49	143
高次脳 他	29	21	74
身体	13	17	40

(3) 通所部門

①自立(機能)訓練(通所および訪問によるリハビリテーションサービス)

午後1時~4時 毎週月~金 1日の定員 10名

- ・実績 (延人数) 平均3.1/日

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
自立 訓練	通所	59	57	44	26	43	47	62	53	47	43	47	44	572
	訪問	0	0	0	0	2	1	1	3	0	1	0	0	8
市単(通所)	0	0	0	0	0	7	26	18	9	20	31	37	148	
計	59	57	44	26	45	55	89	74	56	64	78	81	728	

・利用者の状況

(性別／年齢)

令和3年3月31日

年齢	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～	計
男	0	1	0	4	6	2	0	13
女	0	1	0	3	0	3	0	7
計	0	2	0	7	6	5	0	20

(障害手帳の内容)

障害名	肢体障害	視覚障害	重複 (視覚・精神)	重複 (肢体・精神)	重複 (肢体・知的)	精神	なし
人数	12	0	0	0	1	3	4

②生活介護（通所デイサービス）午前10時～午後4時 毎週月～金 1日の定員 10名

・実績

平均6.1人／日

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
生活介護	77	97	141	133	128	130	137	115	122	114	104	150	1,448
市単独	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	77	97	141	133	128	130	137	115	122	114	104	150	1,448

・利用者の状況

令和3年3月31日

(性別／年齢)

年齢	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～	計
男	0	0	2	2	1	3	0	8
女	0	0	2	1	3	0	0	6
計	0	0	4	3	4	3	0	14

(障害者手帳の内容)

障害名	肢体障害	視覚障害	重複 (視覚・精神)	重複 (肢体・精神)	重複 (肢体・知的)	精神	なし
人数	8	2	1	2	1	0	0

令和2年度 障害者地域生活支援ステーション わくらす武蔵野 事業報告

1 事業運営について

障害者地域生活支援ステーションわくらす武蔵野は、平成31年3月の開所から、丸2年余りが経過した。実施事業としては、施設入所支援、生活介護（日中活動）、なごみの家・短期入所事業、指定特定相談支援事業、行動援護、貸館事業（B1オリーブホール）である。今年度は武蔵野市の要請で「在宅要介護障害者受入態勢整備事業」（介護の必要な障害をもつ人の家族が新型コロナウイルスに感染した場合に、障害のある人を緊急一時的に短期入所施設で介護することにより、障害のある人への感染予防と家族が安心して療養に専念できる環境を整備する事業）を受諾している。

新型コロナウイルス感染症が流行する中、ご利用者・職員ともに陽性になることなく推移している。研修や訓練のほか、リスクを下げるためのオペレーションの変更などを繰り返し実施してきたが、今後も油断することなく感染対策を徹底していきたい。

施設入所支援においては、開設時より予定されていた、「4床ある体験入所枠のうち、2床の入所化」を予定通り実施した（利用調整委員会を開催し、2名の新規ご利用者が入所された）。このため、施設入所支援の定員枠は36名から38名に増加した。一方で今年度は4名の退所者があり、これに伴う新規ご利用者の利用調整は2名となっている。また体験入所事業については、第1回目の緊急事態宣言前からすでに体験入所を利用していただいていた方1名と短期間（1週間だけの体験入所）の方1名のみ実施し、それ以外のご利用者については、感染状況を見ながら「丸1年間スライドして実施する」とした。

なごみの家・短期入所事業については、新型コロナウイルスの影響を大きく受けた。第1回目の緊急事態宣言の前後は、感染防止のためにわくらすの通所者のうち希望者を短期入所として長期間受入れた一方、なごみの家・短期入所の登録者には利用の自粛をお願いした時期があった。年度の途中からは、利用を一定程度制限しながら運営した（入所ユニットにある短期用の居室は使用せず、原則3Fの生活スペースでのみ、緊急時等の対応をする）。こうした中、家族の急逝や疾病に伴い3か月以上の長期の利用ニーズには感染対策をとった上で対応した。結果的に1～2泊程度の単発利用やタイムステイは大きく減った一方、比較的長期のショートステイに対応したこともあり、利用総時間数としては前年比1.3倍となった。

指定特定相談支援については施設入所支援ご利用者と生活介護ご利用者を中心に42名のサービス等利用計画を作成した。

行動援護については人的配置やスタッフの感染リスクの観点から、実施件数は1件にとどまった。

オリーブホール（B1F）の貸館事業については、市の公共施設の貸し出しルールを参考に事業を継続した。実績は2団体のべ13件だった。

また、わくらす武蔵野は、武蔵野市における地域生活支援拠点等の中心的な役割を果たすことが期待されている。しかしながら令和2年度は新型コロナウイルスへの対応等で十分に役割を果たすことができなかった。今後は地域自立支援協議会や市内の関係団体と連携しながら、機能化を図っていきたい。

2 ご利用者の状況

（1）施設入所支援

わくらす武蔵野は4つのユニットで構成されており、それぞれ次のようになっている。

2F	ユニット「空鳥」	10部屋	主に自閉症（強度行動障害含む）の男性の方
	ユニット「橙月」	9部屋	主に自閉症（強度行動障害含む）の女性の方

1F	ユニット「 <small>ふじはな</small> 藤花」	10 部屋	主に最重度の知的障害（男女混合）のある方
	ユニット「 <small>むぎかぜ</small> 麦風」	9 部屋	主に重症心身障害（男女混合）のある方 ※医療的ケアが必要な方 2 名を含む

※この他、各ユニットに短期・なごみ用の居室が 1 部屋ずつ、空鳥と藤花に体験入所用の居室が 1 部屋ずつある。

① 利用者数（定員 40 名） 令和 3 年 3 月 31 日現在

	前年度末	入所	退所	年度末
男性	20	1	2	19
女性	16	1	2	15
合計	36	2	4	34

② 年齢別利用者数（平均年齢 39.7 歳） 令和 3 年 3 月 31 日現在

	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	合計
男性	0	8	4	5	1	1	19
女性	0	0	3	9	3	0	15
合計	0	8	7	14	4	1	34

③ 障害支援区分別利用者数（平均 5.3） 令和 3 年 3 月 31 日現在

	区分 4	区分 5	区分 6	合計
男性	2	2	15	19
女性	2	8	5	15
合計	4	10	20	34

(2) 体験入所

- ①利用者数 2 名（男性）
- ②年齢別利用者数 20 歳代 1 名、30 歳代 1 名
- ③障害支援区分別利用者数 身障 1 級および愛の手帳 1 度 1 名、愛の手帳 2 度

(3) 生活介護のみ

①利用者数（定員 10 名） ※定員総数は入所 40 名を含めた 50 名 令和 3 年 3 月 31 日現在

	前年度末	入所	退所	年度末
男性	5	0	1	4
女性	0	0	0	0
合計	5	0	1	4

②年齢別利用者数

令和3年3月31日現在

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	合計
男性	0	2	1	2	0	0	5
女性	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	2	1	2	0	0	5

④ 障害支援区分別利用者数

令和3年3月31日現在

	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
男性	0	0	0	0	2	2	4
女性	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	2	2	4

(4) なごみの家・短期入所

①なごみの家利用者数 31名（うち、幼児2名、学齢児童6名、成人23名）

②短期入所利用者数 15名（うち、市内15名、市外0名）

(5) 計画相談

	重心	知的	合計
計画相談	5	34	39

3 主な事業実績とサービス・支援内容

(1) 事業実績

上半期		4月	5月	6月	7月	8月	9月
施設入所支援		1,050日	1,085日	1,050日	1,082日	1,087日	1,049日
体験入所		30日	31日	30日	30日	29日	29日
生活介護		864日	931日	901日	913日	869日	833日
なごみ	タイム 件数	0件	0件	1件	2件	10件	9件
	泊数	0泊	0泊	1泊	0泊	0泊	0泊
	総時間	0h	0h	17.25h	4.5h	38.5h	21.5h
短期	泊数	68泊	124泊	121泊	41泊	8泊	10泊
	総時間	1,230h	2,300h	2,216.5h	760h	150.25h	183h

下半期		10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
施設入所支援		1,111日	1,078日	1,081日	1,082日	980日	1,076日	12,811日
体験入所		0日	0日	0日	0日	0日	0日	179日
生活介護		873日	840日	883日	892日	771日	885日	10,455日
なごみ	タイム 件数	8件	11件	12件	6件	10件	13件	82件
	泊数	0泊	0泊	0泊	0泊	3泊	2泊	6泊
	総時間	30.5h	33.5h	42.25h	22h	95.25h	41.25h	346.5h
短期	泊数	11泊	55泊	66泊	50泊	28泊	32泊	614泊
	総時間	211.75h	1,077.5h	1,246h	940h	516h	585h	11,416h

(2) サービス・支援内容

①施設入所支援

食事の提供	栄養士による献立、調理業者による3食の調理、温冷配膳車による配膳のほか、ご利用者の摂食機能に合わせた特別食、食事の介助、体重等に配慮したカロリー調整など
健康管理	看護師・支援員による日常的なバイタルチェック、口腔ケア、服薬管理、体重管理、排せつ管理、嘱託医による健康管理、訪問歯科、定期検診（年3回）、歯科検診、インフルエンザ予防接種など
その他の生活支援	入浴支援、就床・起床支援、排せつ介助、夜間帯の巡回、更衣・整容支援など

②生活介護（日中活動）

今年度は、前半は新型コロナウイルス感染症対策として、ユニット間での交差感染を防ぐために、「ユニット単位」での縮小した日中活動メニューとしたが、後半は感染対策をした上で全体を2グループに分けて活動した。ここでも接触感染や飛沫感染が起きないように、調理プログラムなどは自粛した。主な活動は次の通り。

運動・健康	TDR（講師による、体操・ダンス・リラックス）、ウォーキング、公園ジョギング リハビリ（PT）
創作・表現	裂き織、さをり織、絵画（講師）、クラフト（木工）
手作業	自立課題、鉢ポッターづくり、

リラックス 趣味	読み聞かせ、スヌーズレン、コンサート、カラオケ、シネマ
地域活動 社会参加	ポスティング、地域清掃

このほか、通所のみの方には、必要に応じて送迎サービスを行っている。

③短期入所・なごみの家

予約	新型コロナウイルス感染症対策期間中として、1次予約（メール、FAX 等による1.5か月前の予約）の受付は停止し、2次予約（従来通りの30日前の予約）のみ受け付けている。緊急性の高いものや重要な家族の用事に限り、必要最小限の利用時間としている。
定員	新型コロナウイルス感染症対策期間中として、原則として1名（通常なごみ2名、短期2名）
送迎	基本的に市内を対象にした車両送迎
食事の提供	施設入所支援と同じ献立、利用者の摂食機能に合わせた特別食など
その他の 生活支援	利用の時間に応じて入浴支援、就床支援など

4 その他の事業

(1) 貸館事業（オリーブホール（B1F）の貸し出し）

新型コロナウイルス感染症対策期間中として、市の公共施設（コミュニティセンター等）の会議室の貸し出し事業に準じた対応をしてきた。期間中の利用は少なく、2団体（のべ13件）のみだった。

利用団体

〔 大野田地区青少年育成協議会、4 Chu-café 〕

(2) 見学者

合計で10件の見学（延べ20名の見学者）があった。コロナ禍でもあり、見学の目的や人数を制限した上で受け入れたほか、必要に応じてオンラインでの見学なども実施した。

(3) 防災（避難）訓練

自衛消防訓練

4回

(4) 家族会等

家族会は新型コロナウイルス感染症対策として、集合での開催を自粛した。家族会の世話人会は4回の打ち合わせの他、SNS（LINE）を用いて意見交換や意思決定をした。世話人会と協議し、オンライン面会や日中活動の様子ライブ中継などを実施した。

(5) ボランティア

新型コロナウイルス感染症対策期間中として、原則受け入れを停止させていただいた。

(6) 地域イベント

コロナ禍により、これまで参加してきた地域イベントは中止となった。また、わくらす武蔵野が地元の町会（北町5丁目町会）に会場を貸し出してきた餅つきイベントも中止となった。

(7) 人材育成・職員研修等

①OJT-one（新卒スタッフを対象にした1年間のOJTプログラム）

対象者（2名）が毎月OJTリーダーと日々の業務について面談し、業務の習熟度の確認や業務上の相談などをしていった。

②公認心理師による集合研修、ケースカンファレンス、コンサルテーション

集合研修として「感覚統合」をテーマに2回実施した（作業療法士と合同）ほか、ケースカンファレンス、若手スタッフへのコンサルテーションなどを実施した。

③作業療法士によるセッション

今年度より作業療法士にも来所いただき、自閉症の方を中心にセッションやケースカンファレンス、職員向けの研修などを実施した。

④その他の内部研修

新型コロナウイルス感染症対策研修（5回）、虐待防止研修（3回）

③外部研修（OFF-JT／加算資格含む）

加算資格研修として強度行動障害支援者養成研修を積極的に受講した（10名のべ43回）。相談支援従事者初任者研修（2名のべ10回）、サービス管理責任者研修2名4回、喀痰吸引研修2名2回

5 苦情・事故件数

苦情：17件

事故：15件

令和2年度 武蔵野市桜堤ケアハウス(軽費老人ホーム ケアハウス) 事業報告

I. 事業運営について

武蔵野市桜堤ケアハウスの1年間の利用者動向は退所者が3人、新規入居者は3人となった。平均入居期間は5年となり、ここ3年で男性入居者も11名となり男女比率もほぼ同率となっている。また60代入居者も1名から3名と世代交代も進んできている。以前から入居されている方々には、軽度知的障害、理解力・記憶力等の低下などの精神・認知機能に障害がある方もいる一方、ここ2年ほど、周囲との協調的な関係が保てない方が増え、より支援力が求められている。また長期入居されている方々においては、高齢化・虚弱化により介護等が必要な状況も増えている。個々の入居者の方々の生活の中で、入居者同士が良好な人間関係を築くことも難しくなってきている。

そのため、その人らしさを大切に、良好な関係を築きながらケアハウス及び地域での生活を継続できるよう、個々の心身の状態に合わせた相談支援を講じている。

1 サービス提供形態と利用実績

サービス種類：軽費老人ホーム(ケアハウス)		延べ利用者数	利用率
定員	29名(個室25室・2人部屋2室)	8,845名	80.6%

2 ケアハウス利用者の状況について

(1) 入退所状況

(人)

	令和2年度当初	退所	入所	令和2年度末
男性	11	2	2	11
女性	14	1	1	14
合計	25	3	3	25

*退所者3人は他施設への転居

(2) 年齢構成等

<平均年齢>

(歳)

<年齢構成>

(令和3年3月31日現在・人)

	令和2年度当初	令和2年度末
男性	79.6	80.3
女性	85.1	86.8
平均年齢	83.7	83.9

	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代
男性	2	3	4	2
女性	1	1	5	7
合計	3	4	9	9

(3) 要介護認定状況

※総合事業対象者は、令和2年度当初1名、令和2年度末1名

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	平均要介護度
令和2年度当初	1	0	7	1	3	0	0	1.53
令和2年度末	0	0	10	3	2	0	0	1.47

(4) 外部サービス利用状況

*重複あり

(令和3年3月31日現在・人)

	ホームヘルプサービス	通所系サービス	訪問看護	その他
男性	3	5	3	0
女性	7	4	2	2
合計	10	9	4	2

3 その他の実績

(1) ボランティア・見学、苦情等

ボランティア活動延人数：11名	見学者数(一般見学)：0名	苦情報告：0件	事故報告：0件
-----------------	---------------	---------	---------

(2) 多世代交流としてスペース提供(乳幼児・児童等と入居者との交流機会)

30年度から3階・和室を、月曜から金曜日の平日(祝祭日除く)の午後に、市内の小・中学生を対象に学習教室の場所として無償貸出している。同じく毎週水曜日の午後に、隣接する小学校の生徒を対象としたけん玉クラブの練習場所として4階ロビーを無償貸出していたが、今年度は先方の都合により活用の機会はなかった。

金魚や亀を飼っている正面玄関脇の池は、近隣の小規模保育室・保育ママさんの乳幼児たちの散歩コースとして開放し、定期的に交流を図っている。また入居者が作成した手作りマスクや雑巾を近隣の保育園や小学校に寄贈し間接的交流に努めた。

4 食事提供、健康管理等

(1) 食事提供状況

利用者の食事形状では下表のような状況がみられている。

常食	25	粥・おかず普通(きざみ等)	0	(令和3年3月31日現在・25名)
----	----	---------------	---	-------------------

日々の健康状態を食事摂取状況からも把握ができるため、調理部門職員と生活相談員とが連携する。行事・伝承食(伝統的文化食)を組み入れ、季節感のある食事の提供を行った。また「ご意見箱」を活用し、リクエストを献立に随時反映した。さらにコロナ禍で外出制限のある中、少しでも楽しみもてる食事になるよう、郷土料理を10月～12月の期間に、「全国うまいもの物産展」と称して週一程度、献立に取り入れ食事メニューの創意工夫を行った。

(2) 健康管理等の状況

入居者自身の病識の低さや服薬管理が難しい入居者へは、定期的に健康相談の利用を勧めた。また、安心・安全な日常生活を送って頂けるよう、「コロナに負けない夏の過ごし方」(7月・8月・9月)などお役立ち講座を開催した。コロナ禍の中で心身機能及び日常生活動作の維持向上を目的にさわやか健康クラブでは、専門の講師を招いての介護予防体操を月1回(10月からは2回/月)で定期開催した。更に12月からは1月からの食堂内修繕に伴い「運動機能維持のための個別メニューによる体操と歩数計を利用した活動」を推進し全入居者のフレイル予防に努めた。

5 相談支援等

入居者の高齢化、虚弱化、さらに、理解および記憶の機能低下等により、集団生活上のルール、マナーなどが守れなくなってきている方が増えており、入所者間でのトラブル、人間関係上の精神的な抱え込みも多くなってきている。そのため、一人ひとりの状況に合わせた相談支援や関係機関との調整を図り、また家族(保証人)とも連絡を取り合いながら対応している。

保証人自体が高齢化しており、亡くなられた方や疎遠となられているケースも増えてきており、現状の経済面に関する支援や入院時の身上監護、次の生活の場に向けて、適切な関係機関と連携した支援の必要度が増してきている。この他に、昨年度から入居者全員に対して、入居者の日常生活における要望などを伺い、ケアハウスで「安心・安全な生活」が送れるよう個別支援計画書を作成している。

健康管理・疾病等に関すること(体調管理、通院介助、医療機関との連絡調整など)	651件
日常生活全般・精神的なケア(食生活・住環境等の生活面、人間関係調整等)	1,179件
介護保険等の制度利用に関すること(制度の紹介や申請・手続き、関係機関への繋ぎ)	317件

6 各種事業実績

(1) 年間行事の実施状況

(人)

行事名	実施日	行事内容	参加人数
入居者個別面談	5月上旬から6月下旬にかけて実施	入居者と職員の個別相談	21
お役立ち講座①	7/8	「コロナに負けない夏の過ごし方」	14
七夕飾りづくり	6/22～7/9	季節の行事として少人数で飾り付けを実施 ※飾り：桜Kids、短冊：信陽舎学生	4
夏の夕食会	7/29	学生寮生と親睦を兼ねた食事会	20
ミニ縁日	8/5	季節感を楽しんで頂く機会として昼食時に実施	19
お役立ち講座②	8/12	「コロナに負けない猛暑の過ごし方」	12
選べるアイスの日	8/14	季節感を楽しんで頂く機会として昼食時に実施	19
ケアハウス食堂①	8/20	昼食時に、お選び頂いた定食を提供	20
お役立ち講座③	9/16	「コロナに負けない残暑の過ごし方」	10
敬老の会	9/20	昼食時に、お祝い膳や市長のビデオレターを流し実施	22
桜堤コミセン文化祭	10/24, 25	入居者作品を展示（手芸・書道・俳句・写真等）	—
ケアハウス食堂②	11/19	昼食時に、お選び頂いたランチを提供	24
季節の湯	12/21	ゆず湯	25
年忘れお楽しみ会	12/24	夕食の際に忘年会を実施	22
新年のお祝い膳	1/10	昼食の際に新年会を実施	23
節分(豆まき)	2/2	1階正面玄関前での豆まき	21

(2) 趣味活動、他の実施状況

活動名	活動回数(実施月)	活動概要、他
さわやか健康くらぶ	月1～2回	体操のインストラクターによる健康体操
歌声サークル	月2回(中止)	音楽講師による音楽活動、歌の会
手芸	週1回(中断あり)	ボランティア講師による編物、刺繍等の教室
書道	月2回(中止)	ボランティア講師による書道教室
手作りの会	月1回(中断あり)	地域のボランティアによる小物づくり教室
入居者懇談会	年6回(偶数月実施)	入居者と職員による懇談会(行事等の案内、利用上のルール等確認)
避難訓練	年6回 (5・6・8・10・12・2月)	学生寮生と合同の夜間、日中・夜間想定防災訓練
健康相談	週1回	配置医師による健康面、持病等に関する相談

7 入居者の募集・選考、入居の問い合わせ

(1) 募集・選考

令和2年4月に一人部屋・2部屋と二人部屋・1部屋の募集を行った。二人部屋の応募はなく、一人部屋の該当者は2名だったため、抽選は行わず7月から9月の期間で入居した。

令和2年10月に一人部屋・1部屋と二人部屋・2部屋の募集を行った。二人部屋への問い合わせはあったが、応募はなく、一人部屋の該当者は4名だった。抽選の結果、1名が当選し12月に入居した。

ほか3名の方は令和2年度末までに空きがでた場合の補欠者とした。

令和3年1月に二人部屋・2部屋の募集を行ったが、問い合わせはあったが、応募者はなかった。

*年間通して、在宅介護・地域包括支援センターへの入居募集の紹介などを行いながら、3回の入居募集を積極的に実施した。

(2) 入居に関する問い合わせ状況

居室形態	市内	市外	合計
一人部屋	24件	4件	28件
二人部屋	6件	0件	6件

8 その他

(1) 大規模修繕等の工事について

工事名称	工事期間	工事期間中の対応
エレベーター改修工事	5月下旬-6月上旬	<p>工事による騒音・振動のため入居者の心的ストレスも見られたため、生活相談員がこまめに居室訪問して入居者の体調の聞き取りなどを行い、日常生活に大きな支障が及ばないように努めた。</p> <p>またエレベーター改修工事及び食堂内改修工事については、エレベーターや食堂が使用できないため、お弁当形式による居室配膳等で3食とも調理職員・生活相談員及び警備員で対応した。</p>
放課後等デイサービス事業開始に向けての2階フロア改修工事	8月-10月末	
共用部（廊下、トイレ等）・事務所・相談室・更衣室・和室等の照明LED化およびリモコン照明制御装置更新工事	11月-12月末	
雨漏り発生による外壁タイル面散水試験、脆弱部撤去・躯体等補修、外壁タイル復旧作業工事	11月下旬-12月上旬	
食堂壁面・天井・空調機扉再塗装工事および一部壁面の掲示用ビニレスボード化工事、食堂入口等の網戸設置工事	1月上旬-3月中旬	

(2) 民法改正に伴う運営規程・重要事項説明書の内容変更等について

令和2年4月の民法改正に伴い、重要事項説明書等の見直し（修繕費等の極度額の設定）が必要となり、主管課に確認をとりながら内容を一部改訂した。改訂版については、7月から9月にかけて入居者・保証人へ説明・同意を得た上で、署名捺印を頂く手続きを取り交わした。

(3) 新型コロナウイルス感染症に対する対応について

令和2年1月末から東京都並びに武蔵野市などからの新型コロナウイルス感染症情報を踏まえて、コロナウイルス感染症への対応を準備した。ケアハウス入居者・来館者などに対してお知らせ文を通じての注意喚起や具体的な予防策（マスク着用・手洗い・手指消毒等）の周知徹底、また玄関内にサーマルシステム導入（自動検温機器の設置）、食堂等への飛散防止パネルの設置など感染防止に努めた。

※入居者へは、朝夕2回の検温をお願いして記録して頂くよう促している。

またケアハウスでは不要・不急の外出自粛、行事の中止に伴い、入居者の心身的ストレス軽減及び生活不活発化（特に下肢筋力の低下）防止を目的に、生活相談員による配茶サービス、居室における体操プログラムの紹介、ケアハウス敷地内での園芸活動支援にも取り組んだ。

(4) 高齢者支援部門全体研修会及び桜堤ケアハウス職員全体研修会の実績

*今年度はコロナ禍にあるため、研修回数と開催内容を変更し開催した。感染拡大防止対策をとって、高齢者支援部門研修会及びケアハウス職員全体研修会を併せて実施した。尚、今年度はゆとりえ・ケアハウス単体開催とした。

開催日	研修内容	参加者数
11/17(火)	<p>高齢者支援部門全体研修会・桜堤ケアハウス全体研修会</p> <p><u>第1部：福祉の仕事の基本</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○法令遵守 →(「法令遵守(コンプライアンス)と法令根拠) ○倫理規定 →(倫理と尊厳) ○個人情報保護 →(個人情報保護とプライバシー保護の違い 介護現場におけるプライバシー保護等) ○身体的拘束等の適正化→(検討委員会の設置、指針、具体的な事例) ○様々な場面でのビジネスマナー(案内・席次編) <p><u>第2部：「大規模災害時におけるBCPの実際」</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「武蔵野市総合防災訓練から見えてきたこと」についての概要説明 …・大地震・水害・土砂災害等非常災害時の対応策(行動手順) ・福祉避難所の開設とその現状等 <p><u>第3部：「教える、学ぶこと」を通じて、</u> <u>職員として必要な心構えや大切にしたいことを考える</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○セクションごとのKJ法によるグループワーク <p>*各グループで検討された模造紙の閲覧のみでグループ発表はなし。 参加者から提出された研修レポートの意見・感想等を踏まえて次年度の研修内容を検討する。</p>	13名

令和2年度 武蔵野市桜堤ケアハウス在宅介護・地域包括支援センター 事業報告

武蔵野市の西部地域(桜堤・境・関前)の高齢者総合相談窓口として、地域にお住まいの高齢者やその家族に対して、医療・介護・福祉サービスの情報提供・利用調整や、権利擁護に関する支援など、24時間365日絶え間なく行ってきた(電話受付については、夜間帯はゆとりえへ転送)。また、基幹型地域包括支援センターとの協力体制を取りながら、地域包括ケアシステム実現・推進に向けて取り組みを行ってきた。あわせて、地域で活動する民間ケアマネジャーに対して、相談・支援等のサポートも充実させてきた。

地域においては、

- 関前地区では、なかなか地域の方たちとつながる機会を持つことは少なかったが、コロナ禍でのいきいきサロンの活動のサポートや、地域の社会資源である「たんぼぼの家」(かんたき)とも地域にお住まいの高齢者やその家族などの支援を積極的に行ってきた。
- 境地区では、個別地域ケア会議を2回開催し、その中でテンミリオンハウスきんもくせい(以下、きんもくせい)と地域で生活を送る高齢者やその家族に対しての支援について考えるきっかけができ、次年度は「きんもくせい」と一緒に地域ケア会議を取り組んでいくこととなった。
- 桜堤地区では、個別地域ケア会議を2回開催し、昨年度からの取りまとめとして、サンヴァリエ桜堤(以下、UR)にスポットを当てたエリア別地域ケア会議を開催することができ、その会議を通して地域住民とのつながりの大切さを改めて実感し、次年度以降も地域課題を考えるきっかけとなった。

また、当圏域の市内最大数9ヵ所あるいきいきサロンについては、生活支援コーディネーターが中心となり、サロン運営の維持・存続に努めてきたが、コロナ禍の影響もあり、令和2年度2ヵ所が活動を終了することになった。

外出の機会が減り、自宅で過ごす時間が長くなり、筋力の低下等がみられる地域の高齢者をサポートする目的で、地域包括保健師等、生活支援コーディネーターが中心となってフレイル予防(自ら目標を決め、週1回ケアハウスに来所し、その成果を職員と確認することを1ヶ月行う)の取り組みを行ってきた。

いきいきサロンは、次年度からは7ヵ所に減少するが、コロナ禍における影響を考えると、フレイル予防のような取り組みを地域の拠点として意識しながら、取り組むことが重要であることを考えるきっかけとなった。

1 在宅介護支援センター(市受託事業)の報告

(1) 相談実績

【相談形態内訳】		【訪問地区内訳】	
形態	件数	地区	延人数
電話	1,966	桜堤	556
来所	279	境	548
訪問	1,541	関前	437
支援会議	53	合計	1,541
その他	77		
合計	3,916		

【援助内容別の相談割合…複数相談あり】

内 容	%
介護保険に関する相談	29.2
認知症・精神に関する相談	10.0
保健・医療に関する相談	14.3
ホームヘルプサービス	6.5
デイサービス	6.1
福祉用具	8.0
住宅改善・住まい	1.7
食事サービス	1.3
高齢者福祉施設(特養 他)	3.0

内 容	%
認知症見守りヘルパー	0.3
ショートステイ	1.6
家庭的事項	1.8
年金等経済的事項	1.1
権利擁護・虐待等	3.2
リハビリテーション	5.1
介護保険に関する苦情	0.5
その他(安心コール・安否確認等)	6.3
合 計	100

2 地域包括支援センター(市受託事業)の報告

(1) 虐待防止(虐待対応件数) : 18件 *重複あり

身体的: 16件	経済的: 0件	心理的: 2件	性的: 0件	介護放棄: 0件
----------	---------	---------	--------	----------

(2) 権利擁護等対応件数 : 72件 *重複あり

成年後見制度関連: 47件	消費者被害: 1件	困難事例: 24件
---------------	-----------	-----------

(3) 地域連携等件数 : 385件

地域連携会議: 87件	介護予防啓発: 147件	他機関との連携: 151件
-------------	--------------	---------------

(4) ケアマネ支援件数 : 506件

個別の相談: 291件	同行訪問: 171件	担当者会議へ出席: 44件
-------------	------------	---------------

3 居宅介護支援事業所実績状況

①年間認定調査件数: 484件/新規同行調査: 106件

②ケアプラン作成総数: 96件

介護給付ケアプラン作成数: 87件	新予防給付ケアプラン作成数: 9件
-------------------	-------------------

4 その他

苦情件数: 0件	事故件数: 0件
----------	----------

5 特徴的な活動

①新型コロナウイルスの影響で日々の業務において制限を受ける中で、認定調査・ケアマネジメント等の訪問等をメインとして、地域の実情や課題把握に努めて、全職員間で情報の共有化を図った。残念ながら、例年実施している地域の集合住宅(団地等)、いきいきサロン、テンミリオンハウス、コミュニティセンター等に出向き、在宅介護・地域包括支援センターの総合相談窓口としての機能や役割、介護保険制度の利用や介護施設の種類・内容の説明、認知症の理解への取り組み、市役所で作成されたエンディングノートの説明などの講座については、老人クラブ向けに3回しか行うことができなかった。

②緊急・短期における福祉用具の貸し出しを行った。(年間47件)

③引き続き日祝祭日の窓口相談にも取り組み、365日、地域における高齢者総合相談窓口としての役割

を積極的に行った。

- ④家族介護支援事業（家族介護者教室「さくらちゃんの介護教室」）においては、各種講座と介護者、介護経験者、これから介護をする見込みのある方など、集いの場を開催した。今年度は参加者や人数を絞り込んで、より交流しやすい内容として行った。

〔家族介護者教室「さくらちゃんの介護教室」〕

実施日	実施場所	講座内容	参加人数
11/18	サンヴァリエ桜堤 中央集会所	「正しい手洗い方法と感染予防」 ～日常生活の中でできる取り組みについて～	5人
12/17	サンヴァリエ桜堤 1号棟集会所	「フレイル予防について」 ～栄養を中心とした予防法～	5人
1/25	桜堤1丁目個人宅 ヘアサロンスペース	「フレイル予防について」 ～フレイル予防に関する事業の情報提供～	6人
3/30	東京こころテラス	「エンディングノートについて」	9人

- ⑤サービス事業者振興事業(西部第一地区別ケース検討会・地域ケア会議)を実施

4月	新型コロナウイルスの影響で中止	10月	地区別ケース検討会 10/20 事例検討会 「本人の意向が引きだしにくい方への支援」(25名参加)
5月	新型コロナウイルスの影響で中止	11月	地区別ケース検討会 11/17 事例検討会 「娘たちと対立が耐えない利用者への支援」(25名参加) 11/10 個別地域ケア会議(桜堤地区)
6月	新型コロナウイルスの影響で中止	12月	地区別ケース検討会 12/15 事例検討会 「医療依存度が高い人と、介護疲弊のある夫への支援」(20名参加)
7月	地区別ケース検討会 7/21 情報提供、年間計画、その他 (21名参加) 7/30 個別地域ケア会議開催 (桜堤地区)	1月	新型コロナウイルスの影響で中止
8月	休会	2月	新型コロナウイルスの影響で中止
9月	地区別ケース検討会 9/15 事例検討会 「キーパーソンの家族との関わりづらい方の支援」(26名参加) 8/13 個別地域ケア会議(境地区)	3月	地区別ケース検討会 3/16 オンライン開催(24名参加) 3/25 個別地域ケア会議(境地区) 3/26 エリア別地域ケア会議 (桜堤地区)

⑥認知症サポーター養成講座ステップアップ講座、地域認知症講座の実施

令和2年度は、新型コロナウイルスの関係で市民向けの1回のみ開催となり、高齢者支援課の協力を得て、ハイブリッド形式で開催し、認知症や高齢者への理解を深めた。

実施日	実施場所	参加団体	参加人数	
2/25	武蔵野プレイス オンライン (ハイブリッド形式)	一般市民	19人	参加者 合計 19人

⑦認知症相談事業の実績

4/15	7/15	10/22	1/20
中止	3人	2人	0人

⑧民生児童委員との定例会の実施

開催日	協議内容	参加者数
7月	新型コロナウイルスの影響で中止	なし
2月	新型コロナウイルスの影響で中止	なし

6 地域行事への参加

例年地域貢献と当施設を知ってもらうために、桜堤ケアハウス全体で地域イベントに参加していたが、今年度は新型コロナウイルスの影響で軒並み中止となった。

開催日	行事名	参加者数
	桜堤桜まつり	中止
	西部コミセンまつり	中止
	桜堤子どもまつり	中止
	介護と福祉の地域広場	中止
	関前コミセンまつり	中止
	境クリスマス会	中止

7 地域に向けた各種講座の説明会（啓発活動）

新型コロナウイルスの影響で軒並み地域活動が中止となったが、地域住民(老人クラブ)向けの出前講座を実施したり、テンミリオンハウスや市民社協との情報交換を行い、できる範囲での交流等を行ってきた。

	地域連携に係る会議	介護予防普及啓発
4月	-	-
5月	-	-
6月	12日 よりあい食堂かよう再開に関する話し合い(10名)	-
7月	30日 個別地域ケア会議(12名)	-

8月	13日 個別地域ケア会議 (11名)	-
9月	23日 市民社協との情報交換会 (3名)	-
10月	28日 きんもくせいとの情報連絡会議 (5名)	17日 長楽会「感染症予防講座」 (50名)
11月	10日 個別地域ケア会議 (10名)	18日 さくらちゃんの介護教室 (5名)
12月	-	2日 一寿会講座 (40名) 9日 福寿会講座 (13名) 17日 さくらちゃんの介護教室 (5名)
1月	-	25日 さくらちゃんの介護教室 (6名)
2月	-	25日 一般向け認知症サポーター養成講座 (19名)
3月	24日 川路さんちとの情報交換会 (約20名) 25日 個別地域ケア会議 (8名) 26日 エリア別地域ケア会議 (8名)	30日 さくらちゃんの介護教室 (9名)

8. いきいきサロン事業の報告

サロン名	サロン開催時間	サロン事業内容	開設年度
iki なまちかど保健室	毎週 月曜日 10:00~15:00	OTによる体操、チェアヨガ、ハンドベル、ぬり絵、手芸 *通常の活動は中止。自主活動を実施	平成28年度
よりあい食堂 かよう	毎週 火曜日 11:00~14:00	理学療法士による体操、音楽療法士による歌、ケアハウス職員による学習会、食事会、園児との交流 *R3.3月末で活動終了	平成28年度
マルセサロン	毎週 水曜日 13:30~15:30	体操、ぬり絵、朗読、カラオケ、交流会 *新型コロナウイルスの影響で会場が使用できなくなり、ココファン武蔵境に会場が変更。コロナが終息しないため、今年度は未実施	平成29年度
五丁目クラブ	毎週 木曜日 13:00~15:00	体操、カラオケ、交流会 *R2.7より再開	平成28年度
どんぐり広場	毎週 金曜日 14:00~16:00	体操、脳トレ、健康相談 *R2.7より再開	平成30年度
ルンルンサロン	毎週 土曜日 14:00~16:00	ペーパークラフト、折り紙、囲碁・将棋、麻雀	平成28年度

		*会場の変更があり、シルバーピアシュロス武蔵野の集会室にて実施。R2.9より再開	
なのはな サロン	毎週 日曜日 10:30~12:30	体操、ちぎり絵、ボッチャ、食事会 *R2.9より再開	平成28年度
サロン式番館	毎週 水曜日 14:00~16:00	合唱、柔道整復師による体操、ふまねつと、ボッチャ、輪投げ、スカットボール、テーブルゲーム *新型コロナウイルスの影響で会場が利用できず、今年度は未実施	令和元年度
いこい	毎週 水曜日 13:00~15:00	体操、カラオケ、茶話会 *R2.12月末で活動終了	令和元年度

令和2年度 武蔵野市放課後等デイサービス事業
「放課後等デイサービス パレット」 事業報告

1 施設の運営について

当施設は武蔵野市より委託を受け(指定管理)、児童福祉法の放課後等デイサービス事業として運営している。令和2年8月から10月にかけて桜堤ケアハウス2階フロアの改装を行い、12月から事業を開始した。

事業対象児は就学児の6歳から18歳で、1日の定員は10名。武蔵野市の方針として、利用要件は主に身体障害児および医療的ケアが必要な児童で、かつ保護者が就労している児童が対象となっている。

12月のプレオープン期間は1日の平均利用児数は4名程度で実施し、1月の本格実施から徐々に利用児を増やす予定であったが、医療的課題を抱える児童が他の発達障害児に比べて多く、季節柄体調不良で当日のキャンセルとなるほか、定期通院や補装具の作成などで休む児童もいるのが実情である。

今年度は新規事業開始にあたり、フロア改装の他に遊具・事務用品及び備品の購入・配置を行った。事業開始時はコロナウィルス感染症防止対策の徹底を図りながら利用児の受け入れを行った1年であった。

事業開催に向けての準備

開催名	月日	実施内容
改装工事	8月～10月	活動室に床暖房設置、部屋の仕切り壁の設置、既存の壁の塗り替え等
保護者説明会	11/11 11/18	事業説明・利用契約、フロア見学など
内覧会	11/24	一般市民、市議会議員、民生委員 市及び法人職員等
その他(内覧)	随時	桜堤ケアハウス入居者、信陽舎理事等

2 利用児の概況と利用実績(単位 名)

年齢別利用児数(令和3年3月31日)

	小学低学年生	小学高学年生	中学生	高校生	合計
男児	3	1	2	1	7
女児	1	3	0	0	4
合計	4	4	2	1	11
内、車いす通所	1	2	2	(屋外車いす)	5

障害者手帳取得状況

		愛の手帳					なし
		1度	2度	3度	4度	等級不明 (申請中も含む)	
身障手帳	1級		2	1			1
	2級		1	1	2		
	3級		2	1			
	4級以下						
	等級不明 (申請中も含む)						
	なし						

事業実績

	12月 (ブレイブ期間)	1月	2月	3月	1月～3月計
実人数	9人	9人	9人	11人	-
事業日数	20日	19日	18日	23日	60日
計画予定数	76人	80人	75人	100人	255人
利用実績	60人	63人	64人	83人	210人
出席率	78.9%	78.8%	85.3%	83.0%	82.4%

3 事業内容

(1) サービス提供時間

学校終了後：14:30～18:00

学校の長期休暇（冬休み・春休み）：9:30～17:00

(2) 活動内容

個別支援計画に沿って、遊びや活動を通して、基本的生活動作の練習や社会性の向上などの発達支援を行った。設定活動では音楽・感触あそび・運動・近隣散歩などを実施している。

(3) 食 事

学校から帰ってくると、おやつを提供、長期休暇中の利用においては、お弁当を持参してもらい、摂食動作の指導を含めて職員が介助または支援している。

(4) 送 迎

在籍児全員が送迎を利用している。車いす児の送迎のため、車いす用リフト車とドライバーを民間の移送サービス事業者に依頼、スタッフが必ず添乗、学校や保護者との貴重な接点である。どこの学校も下校時間が重なり同時に複数の送迎車が必要となるため、市内の他の放課後等デイサービス事業者との相乗りを含めた運行を実施した。送迎車の足りないところを、法人の乗用車に座位保持用のシートを装着して送迎している。

(5) 保護者との関わり

- ・6月、7月 「日中一時支援事業 にじ」 利用希望者の各母子と面談

- ・11月に保護者に対して放課後等デイサービスの利用説明と見学会を行った。8名の保護者の方が来館された。

保護者の就労を条件としているため、日中時間の利用が難しく、送迎時のわずかな時間を有効に使うよう意識している。

4 日中一時支援事業「にじ」の概況

令和2年、放課後等デイサービス事業の開設準備期間中の体験的な事業として、学校の夏休みを利用し、障害者福祉センター多目的室を借りて、小学生の障害児を対象に日中一時支援事業「にじ」を実施した。定員は3名のみであったが7名の応募があり、開設予定の放課後等デイサービス事業の待機者とみなして、利用枠を全員に振り分けた。結果的にはコロナ対応の影響で学校の夏休みが短縮、8月の15日間のみでの開設となり、延べ39名の利用があった。

	事業日数	利用実人数	延べ人数
日中一時支援事業「にじ」	15日	7人	39人

5 その他の事業

(1) ボランティア・実習生

今年度はコロナウィルス感染症流行のため受け入れはなかった。今年度の保育実習生も受け入れなし。

(2) 避難訓練

ケアハウス建物全体で2回、火災時の避難訓練を実施した。

開催名	月日	実施内容
避難訓練	12/17 2/26	ケアハウス館内全体火災訓練2回(12月・2月)

(3) 職員研修：

① 内部研修(事業所のみ・法人研修を除く)

法人内他施設の見学・実習

施設名	月日 / 実施内容
ウィズ	見学 7月～11月(月2回) つばさ事業の支援 9月初～10/2まで(週2回) 看護師研修
ふれあい	見学 4/6 実習 (看護師) 10/5、10/9、10/12、10/15、10/16 (保育士) 10/13、10/20、10/27 (指導員) 1/15、1/19

(ウィズ、ふれあい)

個別にケアハウス全体の組織運営などのオリエンテーションを実施した。

② 外部研修(実習含む)

施設見学・実習等

施設名	月日 / 実施内容
おれんじ学園 nico	4/7、8、9 見学(保育士、児発管) 6/10 実習(保育士)
千川さくらっこクラブ	5/19 見学
千川八幡作業所	9/15 見学
ハンモック	10/20 見学
小平特別支援学校	11/20 見学
小金井特別支援学校	11/26 アポイントメントを取った上で訪問するも見学できず

外部研修の受講

8/3	重症心身児の呼吸・摂食・ポジショニング(Web講座に変更)
8月～9月	「相談支援従事者初任者研修(講義部分)」(2日間) 東京都サービス管理責任者基礎研修及び児童発達支援管理責任者基礎研修(3日間)
9/20	てんかんについて(Web講座)

6 他機関との連携・協力

- ・教育委員会と大野田小のスクールバス送迎ルートの調整
- ・子ども家庭支援センターとの連絡・協力体制の打ち合わせ
- ・送迎ルートの調整を含めた放課後等デイサービスおれんじ学園 nico との打ち合わせ
- ・武蔵野市障害者福祉課保健師による見学と情報交換 等

7 苦情受付状況等

- ・苦情件数 0件

8 その他

ボランティア活動延人数	0人
パレット見学者数 (一般・行政・事業所関係者見学)	32人
見学者数(利用に向けての見学) *保護者説明会見学含む	(保護者等) 8人 (児) 1人
実習生(一般・学生等)数	0人
事前の体験利用者数	0人
アクシデント・インシデント件数	0件
車両トラブル件数	0件

令和2年度 ゆとりえ(特別養護老人ホーム・ショートステイ) 事業報告

令和2年度は特別養護老人ホーム(以下、特養ホームという)の退所者が7名と多かったが(令和元年度3名)、利用率は前年度の97.7%から97.9%へと上昇。ショートステイを含めた全体の利用率も前年度の98.2%から98.3%とわずかだが上がっている。また、当日の依頼を含む緊急ショートステイは3件の受け入れとなっている(令和元年度も3件)。特養ホームの要介護度状況をみると、要介護5の割合が6割を超え、平均要介護度も令和元年度の4.42から4.54と毎年高くなっている。ショートステイの要介護状況では、要介護3の人が一番多く利用し、平均要介護度は3.72となっている。令和2年度末現在の入所希望待機者は317人。待機者は一昨年度268人程度と近年減少していたが、再び増加している。

年度途中の職員の退職が2名あり、また、体調不良により休業となった職員もおり、人員体制は厳しい状態が続いたが、8時間夜勤への移行による日中帯の配置増の効果もあり、なんとか乗り切っている。新型コロナウイルス感染予防のために直接利用者 と接するボランティアや家族の面会、実習生等も中止せざるを得ず、地域との交流や余暇活動、バザー、敬老会や新年会のような家族を交えたイベントも行えなかったため、開かれた施設を維持することは出来なかった。幸い利用者、職員に新型コロナウイルスの感染者は発生していない。

1. サービス提供形態と利用実績

サービス種類：特別養護老人ホーム・ショートステイ		総利用者数	利用率
特養ホーム定員	30名(個室10室・2人部屋2室・4人部屋4室)	10,721人	97.9%
ショートステイ定員	2名(個室2部屋+空ベッド)	761人	104.2%
合計	32名	11,482人	98.3%

2. 特養ホーム入居者の状況について

(1) 入退所状況(令和2年度実績)

(人)

	退所(内、看取り)	入所	令和2年度末
男性	1(1)	0	4
女性	6(6)	6	24
合計	7(7)	6	28

*令和3年4月女性2名入所

(2) 年齢構成等

<平均年齢>

	平均年齢
男性	93.0歳
女性	88.5歳
平均年齢	89.1歳

<年齢構成>

(令和3年3月31日現在・人)

	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代	100歳代
男性	0	0	0	4	0
女性	2	2	6	13	1
合計	2	2	6	17	1

(3) 要介護度状況(令和2年度実績)

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	平均要介護度
特養ホーム延べ人数			0	0	1217	2914	6590	4.54
(割合)	0%	0%	0%	0%	11.3%	27.1%	61.6%	
【参考】前年度(割合)	0%	0%	0%	0%	10.5%	30.3%	59.2%	
ショートステイ延べ人数	0	0	0	18	411	97	235	3.72

(4) 利用者負担段階(居住費・食費の低所得者負担軽減区分)とサービス費用の負担割合(令和3年3月31日現在)

利用者負担段階	人数	負担割合	備考
第1段階から3段階	17人	全員が1割等負担	補足給付(特定入所者介護サービス費等)の対象
第4段階	11人	1割負担=9人・2割負担=2人	

(5) 事故・苦情件数

事故：74件(内、武蔵野市への報告0件)、苦情1件。

3. 特養ホーム利用者の健康管理等[医療・看護的ケア](令和2年度実績)

退所者内訳	退所者7人。全員施設内で看取り。
入院件数及び人数	0件。
外部医療機関定期通院	通院23回(実人数6人)。
救急車搬送	0件
看護職員緊急対応	夜間帯等電話指示19件(オンコール対応)。夜間帯等臨時出勤5件。
インフルエンザ予防接種	28人(30人在籍時)

①医療的なケアを必要としている人数

○経管栄養(胃瘻) ……2人 ○吸引(吸痰) ……必要時吸引5人 ○人工肛門 ……1名

②武蔵野市歯科医師会の事業

毎月1回、協力歯科医制度で歯科医師と歯科衛生士による口腔内の診察と口腔ケアの助言・指導を受けている。4～6月は新型コロナウイルス感染予防のため中止とし、7月再開している。

4. 介護・生活面の状況

(1) 排泄介助

個別の排泄アセスメントを定期的に行い、トイレへ誘導し洋式トイレでの座位をとっての排泄を原則として取り組んでいる。本人から希望を伝えにくい人については、排泄につながりやすい時間帯にトイレに誘導している。昼夜共におむつ使用の重度要介護者についても、排便につながる時間帯にトイレを使用しての対応を行っている。

R3年3月31日現在

自立者	1人	昼夜トイレ介助	11人
昼夜オムツ交換(排便時トイレ介助)	5人	日中トイレ介助・夜間オムツ交換	11人

(2) 食事介助と栄養ケアマネジメント

誤嚥の可能性が高い人は多いため、管理栄養士、言語聴覚士の助言を受けて、食事形状、一口の摂取量、食器・食具等の使用方法、食事時間などについて検討を重ねて、安全でおいしく食べる環境を整えている。さらに、楽しめる食の提供を目的に、選択食(月に1回)やイベント食も企画した。

【食事摂取の状況】

R3年3月31日現在

自立者	7人	見守り・声掛け・一部介助	8人
経管栄養(胃ろう)	1人	全介助	12人

【嚥下状態に応じた食事形態】

普通食	5人		
一口大	8人	ペースト・一部ペースト	15人

【体調に応じた食事提供】

高栄養ドリンク	3人	トロミ剤使用	16人
高栄養デザート	6人		

(3) 入浴介助

ほとんどの人が洗身、移動面での援助が必要な人である。高齢で肌が弱く乾燥傾向の方が多いため、清潔を保ち皮膚トラブルを防ぐ対応にも取り組んでいる。

R3年3月31日現在

個別浴槽(自立・一部介助等)	1人	個別浴槽(電動リフト使用)	14人
		機械浴槽	10人

(4) 機能訓練等の実施状況

理学療法	土曜日
------	-----

5. 主な行事、活動報告

新型コロナウイルス感染防止のためほとんどの行事や活動が中止となった。

行事・活動名	期日	内容
ハンカチの木バザー	中止	ボランティア主催によるバザー
盆法要の集い	8/9	1年間に亡くなられた方を偲ぶ 看取り振り返り
吉祥寺礼祭(御輿)	中止	井の頭通り商店会の皆さんが御輿とともに来館
敬老会	9/20	(家族不参加)長寿を祝う

新年会	中止	家族とともに武蔵野囃子を楽しみ新年を祝う
選択食	9回	3種の献立から選んでいただく食事の提供(イベント食含む)
工作活動	中止	ボランティア指導による工作と合唱
お茶会	中止	ボランティアの振る舞いにより和菓子と抹茶を楽しむ
近隣学校との交流	中止	第三小、第三中、本宿小、立教女学院など
近隣保育園との交流	中止	松庵保育園児との交流
家族懇談会	中止	日常生活の報告、制度改正等説明、グループワーク

6. ゆとりえ特養ホームへの入所希望待機者の状況 (R3年3月31日現在)

(1) ゆとりえ特養を希望する待機者の要介護度状況

待機者総数	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	平均要介護度
317人	0	0	6	26	106	91	88	3.72
割合(%)	0	0	1.8	8.2	33.4	28.7	27.9	
令和2年4月1日の割合	0	0	1.6	9.3	31.6	30.3	26.9	【参考】
平成31年都全体割合	—	—	3.9	7.5	32.9	32.4	23.3	【参考】

(2) その他

○平成30年度の待機者は268名と減少したが、その後は増加し待機者数は300人程度を推移している。相談には病院やグループホームから早期の退院退所を迫られるケースも目立つ。家族の介護負担が非常に大きい方も多い。

7. その他の実績

①第三者評価を受審 (評価団体：有限会社 ヘルスサポート)

令和2年10月5日に利用者4名へのヒヤリングと家族アンケート、職員アンケートを行った。調査結果に基づいて、提供しているサービス内容等を振り返り改善に取り組むきっかけとなった。

②介護職員の人材確保困難

今年度は常勤介護職員新卒採用2名既卒採用1名だったが、既卒1名を含む2名が退職。その後は中途採用を見送った。そのため、1年を通して欠員が続いた。また、体調不良による休業も1名あった。

③地域住民の自主活動を支えるためのゆとりえスペースの開放

地域住民のサロン活動、趣味・健康づくりのサークル活動等を支援するために、ゆとりえスペースの地域開放を本格的に進めてきたが、新型コロナウイルス感染防止のため、スペース開放やハンカチの木バザー、福祉の輪など地域住民とともに行うイベントはすべて中止となっている。

奇数月第4土曜日開催の認知症カフェ「カフェ君の名は」や偶数月第一日曜日開催の「暮らしの保健室 mini」は緊急事態宣言中は休止としたものの、規模を縮小して継続することが出来た。いずれも地域住民とゆとりえ専門職が協働して地域福祉を進める場づくりが行われている。

④大規模改修

開設24年が経ち、経年劣化による建物の修繕や設備の更新が必要となっていたが、今年度東京都の補助金を申請し、年度内に大規模改修を実施することが出来た。

⑤ご家族との面会は7月よりオンライン(16件)と窓越し(58件)の面会を日曜日に実施した。看取り期の方は対面での面会を行っている(17件)。これまでご家族と共に祝ってきた敬老会や新年会是一緒に行えず、家族会も行えなかったため、家族通信の発行を増やし、日常の様子を伝えている。

令和2年度 ゆとりえデイサービスセンター 事業報告

新型コロナウイルス感染症による影響が非常に大きい一年だった。4月の緊急事態宣言を受け、利用の自粛を促し、一時期は稼働率が5割を切っていた。緊急事態宣言が開けた後も稼働率は6割前後で推移。活動は感染の危険が高いマイクを使用した歌の活動や対面で行うお話の会などは休止中。4、5月はボランティアの受け入れも全面的に休止した。6月より徐々に再開したものの、活動を中止した方もおり、ボランティアが積極的に参加していた活動は縮小している。

6月に週4日勤務の非常勤職員が退職したが、利用者減少が続いていたため補充はしなかった。感染予防のための周辺業務が以前より増えたため、2月から介護助手を、3月から朝の添乗の非常勤職員を採用している。感染予防に努め、日々の消毒作業やパーティションの使用を行っている。

利用者の特徴として、特に運動能力の低下していない認知症の方へのケアの度合いが高まっている。帰宅願望など外に出たがる方に安心して過ごしていただく工夫を全職員が共有しながら支援を行っている。また、超高齢化が進み、90歳代以上の方が登録人数の半数以上を占め、100歳以上の方も4名となり、体調変化に気を配っている。

武蔵野市の受託事業である配食サービスの利用者減少は止まらず、令和元年度実績と比較すると約30%の減少となった。食事の提供と共に安否確認を主な目的としているため、利用できる要件が限られており、毎月減少している。また、毎週金曜日の会食型サービス(ゆとりえキッチン)は、令和元年度にいきいきサロンを目指したカラオケの集いを開始したことにより利用者が増加していたが、新型コロナウイルス感染防止のためカラオケが休止となり、2度の緊急事態宣言中は休止したが、2度目の再開後に利用者が戻っていない。

1. デイサービス提供形態と利用実績

サービス種類：通所介護・介護予防通所介護・通所型サービス<通常規模型事業所>	総利用者数	利用率
サービス提供曜日・時間・定員	月～金曜日◆9:00～16:30 40人	6,144人 59.5%

2. デイサービス利用者状況

(1) 要介護認定等結果(令和2年度実績)

要介護者	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計(人)	平均要介護度
延べ人数	1304	1931	1786	796	195	6141	2.48
(割合)	21.2%	31.4%	29.1%	13.0%	3.2%		
前年度(割合)	15.7%	43.3%	22.0%	13.9%	4.5%		

要支援者	要支援1	要支援2	新事業対象者	合計(人)
延べ人数	0	66	63	129
(割合)	0%	51.2%	48.8%	
前年度(割合)	0%	0%	100%	

(2) 年齢構成

(令和3年3月31日現在)

	令和2年度末	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代	100歳代	合計
男性	88.0	0	2	7	6	0	15
女性	91.0	1	3	21	33	4	62
平均年齢	90.0	1	5	28	39	4	77

3. 食事(配食)サービス利用実績(令和2年度実績)

配食登録者(月平均)：約14.7人	1日平均配食数：7.8食	年間総配食数：2,288食(お節含む)
-------------------	--------------	---------------------

○食事内容への配慮として、粥への変更・嗜好に応じた代替え食への対応を行っている。

○利用者減少傾向は現在も続き、総配食数では、27年度：7,230食、29年度：3,723食、R元年度：3,229食になっていたが、さらに大きく減少している。安否確認の目的があり、要件が限られるため新規の配食利用者が減っていることが原因である。

4. その他の実績

(1) 会食型サービス（ゆとりえキッチン）実施状況

営業日数	26日	延べ来店者数	202人	1日平均来店者	7.8人
------	-----	--------	------	---------	------

(2) 事故・苦情件数

事故：11件（武蔵野市への報告は0件） 苦情：1件

5. サービス提供内容等

曜日	月	火	水	木	金
午前	○健康チェック（血圧、脈拍、顔色など） ○朝のつどい ○口腔体操 ○体操（スウェーデン体操、音体操） ○うた、レクリエーション ○排泄ケア ○地域開放型コンサート（中止） ○入浴<月～金曜日>				
昼食	○食事介助 ○服薬 ○口腔ケア ○排泄ケア				
午後	手芸 アートクラブ カラオケ 移動美容室 個別対応 個別機能訓練	絵手紙 カラオケ 書道 個別対応	みどりの会 カラオケ 個別対応	書道 カラオケ 個別対応	コーラス 手芸 染め物 唱歌の会 個別対応 個別機能訓練

○グループ活動を好まない人へは個別の対応を行った。休息や入浴後の静養等でベッド（6台）を活用。
○カラオケはマイクを使用しない。利用者同士の距離をとるため集まって行うプログラム（麻雀や旅の友、口琴クラブ）は行えず、緊急事態宣言中は活動ボランティア不在のため休止したプログラムも多い。

6. デイサービス利用者の健康管理等

*医療処置延べ人数

経管栄養（胃瘻）対応	0人	バルーンカテーテル留置	32人
経管栄養（鼻腔）対応	0人	透析	0人
気管切開	0人	インシュリン注射	0人
吸引	0人	尿ろう	0人
人工肛門	0人	在宅酸素	0人
MRSA	0人	自己導尿	0人
救急搬送	0回		

7. 主な行事、活動報告

行事・活動名	期日	内 容
花見ドライブ	中止	市内の桜の名所を小グループでまわる
長寿を祝う会	9/8~11	楽器演奏、合唱を聴き、祝膳で楽しむ
新年会	1/12~15	祝膳を楽しむ
コンサート	19回	・うたクラブ=19回 ・サロンコンサート=中止 ・市民合唱団=中止
近隣学校との交流	随時	近隣保育園窓越し発表、3中よりお花の鉢
「食」に関する活動	随時	イベント食（12回）
親子広場	中止	乳幼児親子と高齢者との交流プログラム（第2金曜日に開催）
その他		・散髪（中止） ・移動美容室（3回）

8. 食事サービス関連の状況

下記の利用者も含めて食事形態やごはん量の調整、禁食対応、食器の工夫や自助具の用意を行い、快適な食事を提供できるように環境を整えている。

粥/普通	3	ご飯/一口大	4	粥/ソフト or 極刻み	7
粥/一口大	2	ペースト	0	肉のみミンチ or ソフト	3

R3年3月31日現在 (人)
(主食/副食)

9. その他の実績

(1) 家族介護支援プログラム(武蔵野市受託事業)の実施状況

①くつろぎサロンコンサート

毎月第2火曜日にデイサービスの利用者向けコンサートを利用者家族や他の介護者も参加していただく。

実施回数	中止	参加延べ人数	0人
------	----	--------	----

②家族介護者向け健康講座(知りあい ふれあい 支え合う 福祉の輪にて)

中止	ゆとりえ	福祉講座	0人
中止	ゆとりえ	「特養ホーム等の見学説明会」	0人

③暮らしの保健室 mini

偶数月日曜日午後に医療を中心とした相談の場を地域住民と共に行った。

4/5(日)	吉祥寺東コミセン	中止	
6/7(日)	本宿コミセン	中止	
8/2(日)	吉祥寺東コミセン	参加者14名	相談者2名(うち個別2名)
10/4(日)	本宿コミセン	14名	2名(2名)
12/6(日)	吉祥寺東コミセン	8名	1名(1名)
2/7(日)	本宿コミセン	中止	

(2) 福祉サービス第三者評価受審(評価団体:今年度の受審はなし)

令和2年度 ボランティア活動実績(特養・デイ・共通)

新型コロナウイルス感染症予防のため緊急事態宣言下でのボランティアの全面中止と、解除後も直接利用者 と接する活動は大きく制限したため、昨年度ののべ2,711人から822人へと大きく減少している。そのため地域 からの孤立が大きな課題となっている。シニア支え合いポイント、ゆとりえボランティアポイントは継続してい るが、新たなボランティアの受け入れがほぼできないため、地域への広報が行えていない。

(1) 活動延べ人数

①特別養護老人ホームでの活動			
洗濯物たたみ	183人		
整容	0人		
食事下膳	0人		
余暇活動、他(お茶会、クラブ活動、行事参加、傾聴、歌、他)	0人		小計 183人
②デイサービスセンターでの活動			
フロア活動(配下膳、話し相手等)	201人		
趣味活動等(プログラム活動講師・助手、補助等)	204人		
コンサート、小学生、保育園児、他	10人		小計 415人
③その他の部門での活動			
植栽、庭水まき	50人		
配食配達	154人		
事務連絡会、バザー他	0人		小計 204人
			合計 802人

(2) ボランティア懇談会等の実施

	ボランティア感謝の集い	中止
	配食ボランティア(試食会)	中止

(3) ボランティアポイント

シニア支え合いポイント	4/1~3/31	実人数3名	72ポイント
ゆとりえボランティアポイント			468ポイント

令和2年度 実習生受け入れ実績(特養・デイ・支援での延べ人数)

武蔵野第三中職場体験学習	中止	杏林大学・看護学生実習	4人
社会福祉士現場実習	26人	教員介護等体験実習	60人
その他(風のすみか)	6人	合計	96人

令和2年度 ゆとりえ在宅介護・地域包括支援センターの事業報告

武蔵野市の東部地域(吉祥寺南町・吉祥寺東町・御殿山1丁目)の高齢者総合相談窓口として、各種介護支援サービスの情報提供・総合調整、権利擁護、地域支援等の高齢者福祉サービスの事業を24時間365日行った。

住民主体のさまざまな支え合いづくりや地域づくりへの取り組みを、生活支援コーディネーターはじめ職員が一丸となって取り組んできたが、新型コロナウイルス感染症により積極的な活動には至らなかった。外出の機会が減少したことによる心身機能の低下も顕著となり、大きな課題となっている。12月よりゆとりえの南庭を使ってゆとりえラジオ体操を開始し、フレイル予防に取り組んでいる。

また、南町福祉の会と共催の認知症カフェ「カフェ君の名は」と東部福祉の会や吉祥寺東コミセン、本宿コミセン等と共催の「暮らしの保健室 mini」はゆとりえ全体で取り組んでいるが、緊急事態宣言期間以外は規模を縮小しながらも開催できている。

個別相談支援の特徴としては、家族介護力の不足により生活の限界点を迎える独居高齢者への対応に困難性があるため、地域住民の支えが重要となっている。個別地域ケア会議、エリア別地域ケア会議により地域住民を含めたケア体制に取り組んでいる。

1. 在宅介護支援センター(受託事業)の報告

(1) 相談実績

【相談形態内訳】

形態	件数
電話	1,767件
来所	288件
訪問	1,597件
支援会議	48件
その他	130件
合計	3,830件

【訪問地区内訳】

地区	延件数
東町	634件
南町	812件
御殿山1丁目	151件
合計	1,597件

【日祭日・夜間相談内訳】

地域	延件数
ゆとりえ	2,548件
ケアハウス	39件
不明	6件
その他地区	0件
市外	0件
合計	2,593件

【援助内容別の相談割合…複数相談あり】

内容	%
介護保険に関する相談	21.0
保健・医療に関する相談	14.4
認知症・精神に関する相談	10.5
ホームヘルプサービス	7.9
デイサービス	5.4
福祉用具	6.6
家庭的事項	3.7
高齢者福祉施設(様々)他	3.3
住宅改善・住まい	3.2

内容	%
リハビリテーション	2.7
食事サービス	2.0
ショートステイ	2.0
年金等経済的事項	1.6
権利擁護・虐待等	1.1
認知症見守りヘルパー	0.8
介護保険に関する苦情	0.5
その他	13.3
(合計)	100.0

2. 地域包括支援センター事業(受託事業)の報告

(1) 虐待防止(虐待対応件数) : 13件

*重複あり

身体的 : 2件	経済的 : 0件	精神的 : 7件	性的 : 0件	介護放棄 : 4件
----------	----------	----------	---------	-----------

(2) 権利擁護等対応件数 : 58件

*重複あり

成年後見制度関連 : 8件	消費者被害 : 0件	困難事例 : 50件
---------------	------------	------------

(3) 地域連携等件数 : 229件

地域連携会議 : 27件	介護予防啓発 : 20件	他機関との連携 : 182件
--------------	--------------	----------------

(4) ケアマネ支援件数 : 225件

個別の相談 : 119件	同行訪問 : 66件	担当者会議へ出席 : 40件
--------------	------------	----------------

3. 居宅介護支援事業所の実績

①年間認定調査件数：418件／新規同行調査：前期60件 後期78件

②ケアプラン作成総数：179件

介護給付ケアプラン作成数：108件	新予防給付ケアプラン作成数（総合事業含む）：71件
-------------------	---------------------------

4. その他

苦情件数：1件	事故件数：0件
---------	---------

5. 通常活動の実績

①高齢者の孤立や異変を早期に発見するための情報収集と実態把握、災害時に備えた地域連携・協力体制の構築のために、地域福祉の会等の地域会議に参加し、啓発活動や情報交換を行った。

②緊急・短期の福祉用具の貸し出しを行った。(年間 45 件)

③夜間・日祝日を含めた24時間体制の相談体制を確保した。(夜間・日祝日の相談件数は年間2593件)

④個別とエリアの地域ケア会議を通して、地域住民と一緒に地域課題について考えた。

◇個別地域ケア会議

実施日	実施場所	内容	参加人数
11/20	そ~らの家	腰痛等の体調不良や物忘れに不安を感じている方の支援	11人
12/3	そ~らの家	認知力の低下がある方がそ~らの家に通い続けることの支援	10人
3/16	そ~らの家	物忘れが気になる方の支援	7人
3/18	そ~らの家	地域との顔の見える関係づくり	8人

◇エリア別地域ケア会議

実施日	実施場所	内容	参加人数
9/25	吉祥寺東コミセン	つながりについて考えよう～地域の中で孤立を防ぐためにできること	12人
3/26	そ~らの家	地域の高齢者を支えるために本人家族と地域の関係機関ができること	13人

⑤家族支援事業として下記のように「ほほえみサロン(介護者、介護経験者の集いの場)」を実施。

コミセン等を活用することで、地域住民が参加しやすい環境と、少人数で介護者同士がじっくり話せるようにした。また、認知症カフェを定期的開催することができ、集いの場としての機能は果たしている。

2回開催し、延べ9人参加。

実施日	実施場所	講座内容	参加人数
8/27	南町コミセン	フレイル予防～転ばない体づくり	3人
11/10	御殿山コミセン	リフレッシュ小顔マッサージ	6人
2/20	吉祥寺東コミセン	中止	

⑥東部第一地区別ケース検討会の実施

事例検討会を年4回実施。民間事業所を含む主任介護支援専門員がスーパーバイザーの役割を担った。

4月	中止	10月	事例検討会(進行性難病)
5月	中止	11月	事例検討会(転倒繰り返す音楽講師)
6月	中止	12月	講演会(フレイル予防とQOLの向上)
7月	事例検討会(精神疾患で入退院)	1月	中止
8月	講演会(認知症の人の意思決定支援)	2月	中止
9月	事例検討会(認知症BPSD)	3月	オンラインによる振り返り

⑦認知症サポーター養成講座の実施

実施日	実施場所	参加団体	参加人数
12/9	ゆとりえ	一般市民、ゆとりえ職員	5人
			合計 5人

⑧認知症相談事業の実績 5人

5/7：中止	8/5：2人	11/4：3人	2/3：中止
--------	--------	---------	--------

⑨民生・児童委員との定例会の実施

実施日	実施場所	協議内容	参加者数
7月		中止	

2月		中止	
----	--	----	--

⑩その他の講座開催（エンディング講座）

実施日	実施場所	対象者	参加者数
	未実施		

6. 生活支援コーディネーターによる「いきいきサロン事業」等の住民主体の動き

新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言下では休止となる時期が多かったが、感染予防対策を工夫しながら再開している。また、喫茶ウッドストックでのサロンの企画などに取り組んでいる。フレイル予防としてゆとりえラジオ体操も12月と3月に行っている。

高齢者支援部門及びゆとりえでの職員研修・研究会等の実績

1. 高齢者支援部門・職員全体研修会

開催日	研修内容	参加者数
11/10.17.24	「教える・学ぶ」についてグループワークで深める	31人